

勤労倫理をどうとらえるか： 価値比較質問紙調査から¹⁾

南 保輔

1. はじめに
2. 調査について
3. 翻訳と調査結果
4. 高評価の価値項目
5. 勤労倫理の比較

価値という考えは、なにかが良いものであるという考えと密接に結びついている。そうだとすると、「良さ (goodness)」とはなんだろうか。「良さ」は重さや四角いことといった客観的な事実とは違うようだ。なぜなら、なにを良いと思うかは人によって異なるからだ。「良さ」というのは、対象や事象に対する内的な反応であるように思われる。満足できる定義を「良さ」についてことばを使ってすることはできない。この点について、哲学者は一般的に合意している。つまり、「良さ」とはひとつの根本的 (prime)、あるいは原初的 (primitive) 用語であり、基礎的な (primary)、主観的・内的な経験からわれわれが理解するなにかであるというわけだ。痛みや赤という色と同じように、「良さ」はそれを経験したことがない生き物にたいしては、それがなにかを教えることができないようなものなのだ。(D'Andrade & Leininger ip)

1. はじめに

本論は、価値比較質問紙調査の結果を報告する。南は、2003年秋から2004年4月にかけて、335にわたる項目について「あなたにとってどれぐらい大切

ですか」と回答者にたずねて、5段階で評定させるという質問紙調査を成城大学の学生にたいして実施した。207人から回答が得られ、結果の分析を現在すすめている。本論においては、つぎのステップの統計分析に取りかかる準備として、基本的な調査手続きと結果を報告する。

まず、この質問紙調査の背景を紹介しておこう。発端は、南の博士論文研究にさかのぼる。南は、1990年から91年にかけて、アメリカ合衆国の西海岸S市にある日本語補習授業校なぎさ学園（仮名）でアメリカ在住の日本人の子どもの生活経験について調査を行った。また、1991年4月から3ヶ月間、日本に帰国した子どもたちの追跡調査も行った。これらの調査にもとづいて、南は博士論文を作成し（Minami 1993）、のちに日本語で出版した（南 2000）。

日本語での出版を終えて、南は2001年から「その後」を調べ始めた。S市と首都圏などで、何人かの海外子女、帰国子女とその家族にインタビューを行った。最初の調査のときには調査対象者の子どもたちは小学1年生から高校生までだったが、10年が経過して社会人となっている者も多かった。「人間形成」期のある時期をアメリカという「異文化」で暮らしたことが、これらの「子ども」たちにとってどんな「影響」をもたらしているのだろうか。このような調査疑問をたてたときに、かなり自信をもって言えるのは、その「教育経歴」上のものだった。英語力、とりわけ聞き取り能力に関して「普通」の子どもたちよりも優れており、これを教育経歴の組み立てに生かしている帰国子女が多かった。この結果を中心に、南は2編の論考を発表した（南 2002；Minami 2003）。

教育経歴については、かなりはっきりと「アメリカ生活経験」の影響を跡づけることができたが、職業経歴に関してはあまりはっきりとした傾向は見られなかった。英語力を生かした仕事についていたり外資系企業への志向を示したりする者もいたが、それがあまり感じられない者もいた。その理由にはさまざまなものがあるが、1つには、多くの対象者が大学在学中だったり、卒業後数年しか経過していないということがあった。自分の職業経歴をどのように組み立てるかを模索しているただ中にあると感じられる者が少なくなかった。

学校や職業の選択といった側面はかなり「客観的」なものであるが、「アメリカ生活経験の影響」を考えると、そのほかの側面のものも考えることができる。いわゆる「行動パターン」や「ものの考え方」などだ。南はこれについ

て、「文化的アイデンティティ」という概念を軸として使い、博士論文などをまとめた。ただ、博士論文研究の時点では、子どもたちにインタビューすることはあまりなかった。いくつかは実施してみたものの、小学生や中学生にたいして「ものの考え方」を直接聞き出すような質問をしても、うまい回答を引き出すことはほとんどできなかった。

追跡調査のトピックとして勤労倫理に着目したのには、いくつか理由がある。直接のきっかけは、元なぎさ学園校長の澤田氏のことばである。²⁾ 澤田氏は(当時の)文部省派遣教員としてなぎさ学園校長を務めた。帰国後まもなく退職し、アメリカ西海岸にある日本人児童対象の小学校北学園(仮名)の教員となった。南の博士論文研究に協力を惜しまれなかった一方、「その後」を調べることに必要も南にたいして説いた。

澤田氏とはおりにふれて近況報告などを交わしていたが、あるとき、教え子が日本の学校に帰ってうまくいっていないのが悩みだと言った。北学園に在籍した子どもは「まじめで素直」で、勉強にもこつこつと取り組むのにたいして、日本の子どもはそうではなくて、そのためにまわりから浮いたり「いじめ」られたりするといふのだ。このようなエピソードは、それだけで研究の基盤とするには十二分に注意する必要があるものだが、深く掘り下げてみるに値すると感じた。

そう考えた理由の1つは、関西にある帰国子女受け入れ校の教頭であった笹川教諭のことばだ。これはすでに考察したことがある(南 2000: 166-174)。かいつまんで言うと、ある課題や作業を帰国子女にさせるには「モチベーション(動機付け)」が大切だという指摘である。南(2000)は、この発言を、日本の予備校生を研究してアメリカの大学への提出論文としてまとめたツカダの論考(1991)とあわせて解釈した。ツカダは、日本の大学入学試験が、努力して覚えた「知識」の量を問うものであり、受験生はそのために「勤勉に」学習に励む。もし受験に失敗すれば、「努力が足りなかったから」と考えるといふのだ(Tsukada 1991: 100 ; 引用は南 2000: 168より)。ツカダは、大学受験を頂点とする日本の教育制度が生徒に「勤労倫理」を「植え付け」るものであるのにたいして、アメリカの教育制度が「才能は生まれつきのもの」と考えている点で対照的だとしている。南は、笹川教諭の言葉を、ツカダの枠組みに引きつけて以下のように理解した。帰国子女はやみくもに努力はしない。つまり、「努力

が大切」という考えを持っていない、というわけだ。ところが、澤田氏の指摘を敷衍すると、アメリカの初等・中等教育のほうが「勤労倫理」の「植え付け」に成功しているということになる。そもそも、「社会学」の古典とされるマックス・ウェーバーの『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』以来、「勤労倫理」は社会科学の主要なトピックの位置を占めてきた。南が追跡調査において、「アメリカ生活経験の影響」の見られる可能な側面として考えたゆえんである。

2001年から開始した追跡調査だが、最初は「典型的」とされる「元帰国子女」にインタビューを行った。そのときに、教育経歴や職業経歴、その選択の経緯などを中心にたずねるとともに、「自己主張が強い」ほうか、「がんばりや」かなどといった点に照準した。帰国子女本人に自己評価してもらったり、母親にたずねたりした。先にも述べたように、教育経歴や職業経歴についてはある結論に達することができたが、後者については、自己評価もまちまちであり、それをどう解釈すべきかすらもわからなかった。

そういった状況で、2002年の8月にロイ・ダンドラー博士と会った。南はアメリカ社会学会で発表しようとしていた、帰国子女追跡調査の結果をまとめた発表論文（のちに、Minami 2003として発表）をダンドラー博士に送っていた。発表原稿についてコメントして欲しいと連絡したところ、会ってもらえることになった。そのときに見せられたのが、本論が依拠している研究の調査質問紙とその結果である。南が、「勤労倫理」の研究をしているが、インタビュー調査では行き詰まっているという趣旨のことを述べたところ、こういうのがあるがやってみないかと誘われたというわけだ。

ダンドラー博士は、基本的なデータ収集を終えたところだった。アメリカ人学生とヴェトナム系アメリカ人、日本人の3つの文化集団にたいして、329項目からなる価値質問紙調査を行っていた。そのうち、日本人対象者にたいしては、英語の価値項目を日本語訳したものを使用していたが、翻訳の精度を気にしていた。329項目の内容は多岐にわたり、「勤労倫理」に関するものも多く含んでいた。ダンドラー博士は南の博士論文の審査委員でもあり、大学院在学中から日本文化について意見を交換してきた。そういった経緯もあり、博士の価値質問紙を帰国子女追跡調査に使うことにした。

2. 調査について

「価値 (value)」に関する経験的な研究はむずかしい。このことは、価値にかぎらず、態度や意識、信念といった、そのままでは観察者が直接に観察することができない構成概念に一般的にあてはまることだ。ダンドラーデたちの研究は、これを比較文化的にとらえようとするのだから、いよいよやっかいだ。

価値についての論考は多い。日本語では、見田宗介の『価値意識の理論』(1966) がまっさきに思い浮かぶ。経験的な研究についても、統計数理研究所の日本人の国民性調査 (2004) や NHK による日本人の意識調査 (2004) をはじめとして、価値についてのサーヴェイ調査は多く見られる (ほかに、電通総研; 余暇開発センター編 1999)。

本論冒頭に掲げたように、認知人類学者のロイ・ダンドラーデとエイプリル・ライニンガーは、価値を「なにかが良いという感覚」であると定義している。ダンドラーデたちは、調査結果をもとに現在著書を執筆中であり (D'Andrade & Leininger ip)、本論でダンドラーデに言及する場合は基本的にこれによっている。厳密に言うと、2004年8月末に送られてきた草稿からのものである。

2002年の8月に質問紙と基本データ、基本的な分析結果を渡されて説明を受けた。だが、調査や分析手続きの詳細などについては、2時間ほどの口頭の説明だけでわからないところが多かった。日本に持ち帰って詳しく検討したのちにメールで質問したりしたが、メールでのやりとりでは、細部まで理解するにはいたらなかった。ともかく、ダンドラーデ調査の日本語質問紙の日本語の検討を開始した。2003年度になり、成城大学特別研究費の助成を得て、翻訳の専門家の協力を得ることができた。11歳のときから約6年間アメリカに滞在した帰国子女で、現在翻訳を職業としている女性と、329項目の翻訳作業を行った。これについては、3節で詳述する。さらに、南の関心に強く関連のある項目を既存のサーヴェイ調査から探して、新たに7項目を付け加えた。調査用の質問紙として、全部で335項目のものを完成させた。³⁾

2003年度に入って帰国子女の追跡調査も本格化した。1時間以上にわたるインタビューに加えて、質問紙にも回答してもらうことを考えた。だが、335項目のものを回答してもらうには30分ほどを要する。それで、簡略版を作るこ

とにした。ダンドラーデの分析では、329項目をグループ化して58のクラスターとしていた。クラスターの例としては、23ページの表9に挙げたようなものがある。価値項目と同じものもあるし、少し表現が違っているものもある。帰国子女調査の質問文は、クラスターとして使われているものをそのまま価値項目としてたずねることにした。これに、新たに6項目を加えて、64項目の質問紙を作成した。インタビュー時に回答してもらったり、インタビュー後に郵送での返送をお願いしたりした。また、きょうだいがいる場合には回答を依頼してもらったりした。郵便で調査協力をお願いしたりもした。

帰国子女の特徴を明らかにするためには、比較対照するデータが必要となる。ダンドラーデの日本人調査の場合61人とサンプルが小さく、それを補完する必要も感じた。それで、南は成城大学の学生を対象に調査協力を募った。2003年11月に、担当する授業を中心に質問紙を配布した。共同研究室に箱を設置して回収した。その結果、43票を回収することができた。ほぼ全員が文芸学部マスコミュニケーション学科の学生である。

ダンドラーデのアメリカ人サンプルとヴェトナム系アメリカ人サンプルが200以上あり、南としても200を確保したいと考えた。それで、2004年度の研究助成を使って、500円の図書券を調査協力の謝礼とすることにした。年度はじめの4月に学生ホールにブースを設置して調査協力を募った結果、4日間で164の回収数を得ることができた。調査時期と調査方法が若干異なるが、合計で207票を1つのサンプルとして考えることにする。本論が主として依拠しているのは、このデータである。

調査結果は、335の価値項目について、5段階で評定させたものだが、分析に際してダンドラーデは、5段階の評定値をそのまま用いるのではなく、回答者ごとの平均値と標準偏差を用いて標準化している。回答者によっては5段階のうちの中心の3段階でしか答えなかつたり、逆に両極まで使ったりする者があるという点を考慮してのことだ。このような変換の背景には、「価値」をどんなものにとらえるかについての基本想定がある。ダンドラーデは、「価値」の内部構造を相対的なものだとしている。人は、ある項目を別の項目よりも自分にとって価値がある（大切だ）という判断はできる。そのために、価値の測定方法として望ましいのは、順序づけさせることだと言う。

これを実現する具体的な手続きとして、ダンドラーデは以下のようなことを

している。60の価値項目をカードに1枚ずつ記入する。回答者にこれを渡して、3つのグループに分けるように指示する。「とても価値があり、大切なもの」、「中くらいの価値があり、中くらいの大切さのもの」、そして、「あまり価値がなく、それほど大切ではないもの」の3つである。そうして3つに分けた各グループをさらに、それぞれ2つに分けさせる。グループのなかで「より価値があり、大切なもの」と「あまり価値がなく、それほど大切ではないもの」とである。最後に、いちばん上とされたグループの中から、「もっとも価値があり、大切なもの」を3つ選ぶように言う。そして、上から7、6、5と得点を与える(D'Andrade personal communication ; 授業での課題と思われる)。

このような手続きを使うと、安定した測定値を得ることができる。だが、たいへん時間がかかる手続きであり、取り扱うことができる項目数も60前後が限度となる。多量の回答を効率的に集めるために、質問紙を使用して5段階で評定させるという手続きをダンドラーデは使用している。

表1. 成城調査回答者の性別年齢グループ

	年齢グループ						合計	
	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳以上		
性 女性	度数	36	51	27	24	7	4	149
	性の%	24.2%	34.2%	18.1%	16.1%	4.7%	2.7%	100.0%
	年齢グループの%	76.6%	81.0%	71.1%	66.7%	43.8%	57.1%	72.0%
男性	度数	11	12	11	12	9	3	58
	性の%	19.0%	20.7%	19.0%	20.7%	15.5%	5.2%	100.0%
	年齢グループの%	23.4%	19.0%	28.9%	33.3%	56.3%	42.9%	28.0%
合計	度数	47	63	38	36	16	7	207
	性の%	22.7%	30.4%	18.4%	17.4%	7.7%	3.4%	100.0%

表2. 成城調査回答者の性別在籍学部

	学 部					合計	
	経済学部	文芸学部	法学部	短期大学	大学院		
性 女性	度数	8	101	19	16	5	149
	性の%	5.4%	67.8%	12.8%	10.7%	3.4%	100.0%
	学部の%	32.0%	82.8%	52.8%	100.0%	62.5%	72.0%
男性	度数	17	21	17		3	58
	性の%	29.3%	36.2%	29.3%		5.2%	100.0%
	学部の%	68.0%	17.2%	47.2%		37.5%	28.0%
合計	度数	25	122	36	16	8	207
	性の%	12.1%	58.9%	17.4%	7.7%	3.9%	100.0%

本節の最後に、成城学生調査の概要を紹介しておこう。回答者は、男性が58人(28%)で女性が149人(72%)だった。年齢は18歳から22歳までが200人と全体の96%を占めていた(表1 成城調査回答者の性別年齢グループ)。⁴⁾ 平均年齢は19.8歳(標準偏差は2.26)だった。在籍学部は、経済学部が25人(12.1%)、文芸学部が122人(58.9%)、法学部が36人(17.4%)、短期大学が16人(7.7%)、大学院が8人(3.9%)と文芸学部生が過半を占めた(表2 成城調査回答者の性別在籍学部)。このうちの43人(35.2%)はマスコミ学科の学生であり、調査時期は2003年11月から翌年1月にかけてである。ほかにも文化史学科の学生が29人と多く、成城大学の在籍学生の分布とはかなり異なっている。

表3. 成城調査回答者の海外旅行回数

	度数	パーセント
なし	80	38.6
10回未満	106	51.2
10回以上	21	10.1
合計	207	100.0

海外生活経験を見ておくと、旅行をのぞいて1年以上海外に滞在した経験があるのは、18人(8.7%)だった。日本以外で生まれた者は2人いたが、全員が第一言語(母語)は日本語であると報告した。海外旅行の回数を見ると、経験なしが80人(38.6%)、10回未満が106人(51.2%)、10回以上が21人(10.1%)だった(表3 成城調査回答者の海外旅行回数)。

3. 翻訳と調査結果

ダンドラーデとライニンガーは、調査方法について報告する章の冒頭で以下のように述べている。

価値を研究するにはさまざまな方法がある。まず、エスノグラフィー法やインタビュー法がある。広告や政治家の演説、新聞の人生相談などといっ

た文化的な表象をコーディングする方法もある。質問紙法も使える。実験的に、ある選択肢から選ばなければならないような状況にひとを置くことによっても研究することができる。実を言うと、質問紙のひとつひとつは小さな実験である。しかしながら、選択対象としてほんものを提示すること（たとえば、ほかの人ひとと協力するが報酬は少ないというのと、みんなとは別に単独でやるが報酬は多い、のどちらかの行動から選んで実際にさせること）のかわりに、質問紙法の回答者は、これらのものごとについての言語記述から選択することになる。たとえば、「あなたは他者を助けて報酬が少ないのと、ひとりでやって報酬を独り占めするのとどちらを選びますか」というものだ。

それぞれの方法には、長所と短所があり、その支持者がいる。われわれの調査は質問紙データに依拠している。質問紙についてはよく知られた問題がある。まず、同じことばが人によって異なることを意味すること。また、翻訳は完璧ではないこと。さらに、人びとがどれほど正直に報告しても、ものごとに対応するときと同じようにことばに反応することはないという問題もある。ことばで提示されたときには、それが価値があると思う人がいるだろう。たとえば、「平穏静寂をどれだけ価値があると思いますか」という文章にたいしてのように。しかし、実際に平穏静寂が与えられたときには、それをほんとはそれほど価値があるものとしていないと感じることがあるかもしれない。また、質問に回答できないときもあるだろう。あることについてどれだけ価値があると思っているか、ただわからない、あるいは決してわからないということがあるだろう。あるいは、あることについてはどちらとも言えないほど両価的であることもあるだろう。それを価値があると思うと同時に、価値がないと思うといったことだ。そのために、1つの評定値を決めることができないのだ。

質問紙にはこのような問題があるにもかかわらず、効率という点に関しては、価値を質問紙で研究する利点がある。ひとが考えていることについて調べるもっとも効率的な方法は、聞くことである。ひとがどのように選択するかを観察しても、なにを考えているかはわからない。あるひとが喫煙しているのを観察することはできるが、それを良いことだと思っているかどうかはわからない。実験をすれば、嗜好を調べることはできる。だが、あることの良さについてどう感じているかはわからない。ひとがなにを良いと感じているかを知りたいのなら、脳スキャンによって測定できるようにならないかぎり、直接に、あるいは間接に、それについて話してもらうのが最善の方法なのである。(D'Andrade & Leininger ip: 9-10)

ここでは、ダンドラーデたちは、価値について質問紙調査を行う理由を説明し

ている。前節で示唆したように、「価値」の定義にかかわるものも少なくない。価値を「なにかが良いという感覚」であるとするなら、それについて聞き出すことがもっとも効率的な方法であるというわけだ。

他方、質問紙法の問題点をダンドラーデたちは3つ指摘している。まず、文章表現はひとによってその意味理解が異なること。第2に、完璧な翻訳は不可能であること。そして、文章表現への反応が実際の状況での反応と同じであるとはかぎらないことである。本節では、2つ目の翻訳の問題を焦点的に取り上げるが、これら3つは不可分のものとも言える。質問紙調査においては、言語描写がすべてである。なにかについて回答者にたずねて、それへの回答を得るのが質問紙調査であるが、この「言語描写」が「同じ理解」を各回答者に生み出しうるかが、測定の「妥当性」という観点からもっとも重要な点だ (cf. Suchman & Jordan 1992)。

言語表現と翻訳という点でまず問題となるのが、評定尺度の表現だ。これにダンドラーデたちがどう対処したかを紹介しておこう。彼らは、2回のプリテストを実施している。最初は12の質問文を用意して、20の価値項目にたいする回答を得ている。それぞれの日本語版とスペイン語版も作成している。回答を主成分分析して、その結果得られた第1主成分が、測定したいと思っているもの、つまり、「あることが良いという考えのみならず、それを実際に良いものであると経験していることを測定している」と結論づけている。12の質問文の例をいくつか挙げると、「あなたにとって、Xは大切ですか (Is X important to you?)」、「あなたにとって、Xは大きな意味がありますか (Does X mean much to you?)」、「Xは、あなたの人生における主要な目標と結びついていますか (Is X connected to your major goals in life?)」などがある。2回目のプリテストとしては、10の価値項目について24の質問文を試している。「あなたはXをどれだけ価値付けますか (How much do you value X?)」、「あなたにとって、Xはどれぐらい大切ですか (How important is X to you?)」、「Xは、どの程度、あなたの目標の1つですか (To what degree is X one of your goals?)」といったものだ。

2回目のプリテストの結果、ダンドラーデは、「あなたはXをどれだけ価値付けますか (How much do you value X?)」を使ってアメリカ人調査を実施することにした。「価値付ける (value)」ということばが使われているし、第1主

成分の因子負荷量が最大の質問文だったからだ。だが、日本語版とベトナム語版を作成しようとして、翻訳がうまくいかないことに気づいた。それで、2番目に因子負荷量の高かった「あなたにとって、Xはどれぐらい大切ですか (How important is X to you?)」を日本語版とベトナム語版で使用することにしたというわけだ。

2002年8月に南は英語版と日本語版の質問紙を受け取った。それらは、同意書のほかに、「人口統計学的背景 (Demographic Background)」(括弧内は対応する英語版の表現。以下同じ)と題されたフェイスシートと、12ページの価値項目とからなっている。1ページに、28の価値項目が4項目ごとに1行、空行を空けて配置されている。各ページの上に、「次の各項目はあなたにとってどのぐらい大切ですか。該当する番号を○で囲って下さい。(CIRCLE THE NUMBER WHICH CORRESPOND TO HOW MUCH YOU VALUE EACH ITEM)」とある。そして、「全然大切ではない (I don't value this)」、「少し大切 (I value this a little)」、「ある程度大切 (I value this moderately)」、「とても大切 (I value this a lot)」、「非常に大切 (I value this very highly)」という5つが回答選択肢として用意され、それぞれの下に0から4までの数字が並べられている。

南の質問紙では、評定尺度の表現(翻訳)を少し変更した。「以下の各事項はあなたにとってどれぐらい大切ですか。該当する番号に丸をつけてください。」として、「まったく大切でない」、「少し大切だ」、「ある程度大切だ」、「かなり大切だ」、「非常に大切だ」とした。

調査結果は、付表1として論文末に掲載した。価値項目は、ダンドラーデのオリジナルの番号順のままである。アメリカ人調査の項目(英文)、成城調査の項目(日本語)、ダンドラーデの日本人調査の項目(日本語)の順番に並べてある。各平均値は、それぞれのサンプルの回答者全員の平均値である。繰り返すが、各回答者の数値は評定値そのままではなく、328の評定値を標準化したものである。ダンドラーデが収集した日本人データは、61人の回答者のものである。全員が日本生まれで、日本語を母語としている。英語を話すのはそのうちの43%で、性別では65%が女性である。平均年齢は36.8歳となっている。

対照的に、アメリカ人サンプルとアメリカ在住ベトナム人のサンプルに

については、人口統計学的な情報は特に報告されていない。回答者数が、それぞれ 210 人と 248 人ということがあきらかにされているぐらいだ。⁵⁾ 前者はダンドラーデが在職していたカリフォルニア大学サンディエゴ校の学生であり、後者は、ライニンガーが博士論文研究のために調査した在米ヴィエトナム人の人たち（東海岸南部とカリフォルニアに在住）である。本論では、アメリカ人とヴィエトナム人のデータはただ掲載しておくに留める。その解釈は、ダンドラーデたちが著書で展開しているものであり、南がその出版に先立って分析するのは好ましくないし、その用意もないからだ。⁶⁾

表 4. 2つの日本人調査の平均値の差の絶対値の分布

	度数	パーセント
0.1 以下	120	36.6
0.2 以下	77	23.5
0.3 以下	52	15.9
0.4 以下	31	9.5
0.5 以下	15	4.6
0.7 以下	19	5.8
0.7 より大	14	4.3
合計	328	100.0

成城調査とダンドラーデの日本人調査との平均値の差の絶対値の大きさの分布を示したのが表 4 である（表 4 2つの日本人調査の平均値の差の絶対値の分布）。0.1 以下のものが 120 項目で全体の 36.6%、0.1 より大きくて 0.5 以下のものが 175 項目で 53.4%、0.5 より大きいものが 33 項目で 10.1% だった。

表 5. 2 つの日本人調査の平均値の差の大きい上位 33 項目

順位	平均値の差	英文	成城調査の日本語	ダンロウデー調査の日本語	成城調査の平均値	ダンロウデー調査の平均値
1	-1.81	remembering my dreams	自分の見た夢の内容を忘れないこと	自分の夢を忘れないこと	-1.08	0.73
2	1.75	having a well-organized society	社会の仕組みがよく整備されていること	徹底的に組織化された社会	0.03	-1.71
3	1.59	joking around	おもろいことを言うこと	おどけ者であること	0.20	-1.40
4	1.36	feeling that one belongs	居場所があると感ずること	所属していると感ずること	0.62	-0.73
5	0.90	reading comics	漫画を読むこと	同左	-0.17	-1.07
6	0.89	not overindulging	自分をやかやしすぎないこと	感嘆しないこと	0.30	-0.59
7	0.78	getting things to add up	物事の意味を的確にとらえること	物事のつじつまを合わせること	0.43	-0.35
8	-0.77	getting things done	物事をさっさと済ませること	物事を片付けること、やり通すこと	-0.27	0.51
9	-0.77	maintaining a sustainable environment	持続可能な環境を保つこと	資源が枯渇しないよう意識を維持すること	0.03	0.80
10	0.74	keeping my emotions under control	自分の感情をコントロールすること	自分の感情を押さえること	0.51	-0.23
11	0.74	being important	価値ある存在であること	重要な人であること	0.16	-0.58
12	-0.74	learning scientific explanations for things	物事の科学的根拠を学ぶこと	物事の科学的根拠や説明を知ること	-0.56	0.17
13	0.72	playing board games (checkers, Monopoly, etc)	ボードゲーム(囲碁将棋、チェッカー、モノポリ、等)をする	ボードゲーム(チェッカー、モノポリ、等)で遊ぶこと	-1.25	-1.97
14	0.72	the US military	日本の自衛隊	日本の軍隊	-0.61	-1.33
15	-0.70	being exact	几帳面であること	正義であること	-0.47	0.22
16	-0.69	not having social distinctions between people	人びとのあいだに社会的な区別がないこと	人々の間に社会的差別をしないこと	0.14	0.83
17	-0.69	having peace and quiet	平穏静寂であること	平穏であること	-0.18	0.51
18	-0.69	being a good loser	負け惜しみを言わないこと	負けて悪びれないこと	-0.33	0.36
19	-0.65	being close to nature	自然との距離が近いこと	自然に親近感を抱くこと	-0.04	0.61
20	-0.63	being careful to avoid mistakes	誤りを避けるよう慎重であること	自然に親近感を抱くこと	-0.40	0.23
21	0.61	being the center of attention	注目の的になること	誤りをおかさないうように注意深くすること	-0.62	-1.23
22	-0.60	science	科学	同左	-0.50	0.10
23	-0.60	government based on laws	法律に基づいた政府	同左	-0.13	0.47
24	0.60	trying to be the best	最高であるうとすること	一番になるように努めること	-0.23	-0.82
25	0.59	having mystical experiences	神秘的体験をすること	同左	-0.53	-1.12
26	0.56	having authority over others	ひとに対して権威を持つこと	他人に対して権威を持つこと	-0.73	-1.29
27	-0.56	understanding science	科学を理解すること	同左	-0.49	0.09
28	-0.55	not sleeping around	不特定多数の人と性的関係を持たないこと	不特定多数の性的関係を持たないこと	-0.11	0.45
29	0.53	gay rights	同性愛者の権利	同左	-0.09	-0.63
30	-0.52	being reliable	頼りになること	信頼出来る人であること	0.35	0.87
31	-0.52	being a good person	善人であること	同左	-0.07	0.46
32	-0.52	seeking universal truths	普遍的真理を追究すること	同左	-0.59	-0.07
33	0.50	having great wealth	大金持ちになること	莫大な富を持つこと	-0.49	-0.99

328項目中、ダンドラーデの日本語を変更しなかったのは102項目(31.1%)であった(付表1参照)。表5は、2つのサンプルの平均値の差が0.5より大きいものを絶対値の大きい順に並べたものである(表5 2つの日本人調査の平均値の差の大きい上位33項目)。これらの33項目中、日本語を変更したものは24項目であるのに対し、9項目はダンドラーデの日本語をそのまま使っている。328項目を平均値の差の絶対値が大きい順番に並べて、日本語を変更したものと変更しなかったもので順序に違いがあるかどうかをMann-Whitney検定してみたが、とくに有意な違いは見られなかった($U=11080.00$, $p=0.43$)。単に、日本語表現を変更したかどうかで、平均値の差の大きさ(順位)に違いがあるということは言えないことが確認された。⁹⁾

だが、日本語表現の問題がそれで解決されたというわけではない。とくに差が大きかったものは、翻訳にかかわる要因が大きいと思われる。これらを順に見ていくことにする。まず、2つのサンプルで平均値の差が最大だったのが「remembering my dreams」にあたる項目だ。ダンドラーデの日本人調査の質問紙はこれを「自分の夢を忘れないこと」と訳しているが、これは「自分の見た夢の内容を忘れないこと」が正しい。ダンドラーデは「dream」を「目標」の意味で解釈しているが、成城調査では実際に睡眠中に見る「夢」としている。2つのサンプルの評定平均も、前者は0.73であるのに対して、後者は-1.08と大きく分かれている。「dream」という多義的なことばの2つの意味への価値付けの違いを反映しているものと推測される。多義性で翻訳に悩んだことばの例としては、「future」もある。「将来」と「未来」とではかなり異なって理解されるからだ。

差が2位の項目は、ダンドラーデ自身も日本語がおかしいと気づいているものだった。「having a well-organized society」を「徹底的に組織化された社会」としていた。これを反映するように、ダンドラーデ調査ではこれを-1.71と評定している。回答者は、ナチスドイツのような全体主義社会を想定したと思われる。だがこれは、「社会の仕組みがよく整備されていること」ぐらいの意味であり、成城調査では0.03という、ほぼ全体平均と同じ平均値となっている。15位の「正義であること」も誤訳だろう。「being exact」は「几帳面であること」ぐらいが適当だと思われる。

「joking around」が差の大きさが3位となった。これはダンドラーデ調査で

「おどけ者であること」とされており、「おどけ者」というかなり否定的な含意の強い表現が使われていることが理由だと考えられる。英文の意味としては「おもしろいことを言うこと」あたりだろう。6位「惑溺しないこと」の「惑溺する」や7位「物事のつじつまを合わせること」の「つじつまを合わせる」、10位「自分の感情を押さえること」の「感情を押さえる」といった表現も否定的な評価を強く引き起こしたと推測される。ただ、9位「資源が枯渇しないよう環境を維持すること」では「資源が枯渇」の訴求力が強く、それを回避するということが高く評定されたという可能性が指摘できる。16位の「社会的差別」も同じメカニズムを引き起こしていると思われる。

5位の「漫画を読むこと」は、表5の33項目中に9項目ある、日本語を変更していないもののうちで、平均値の差が最大のものである。この項目における差は、サンプルの違いを反映していると考えても良さそうだ。つまり、学生である若者が漫画を好んで読むという事実を反映しているということだ。13位の「ボードゲーム（囲碁将棋、チェッカー、モノポリー等）をすること」は、成城調査では「囲碁将棋」を加えている。「ボードゲーム」の指示対象として、日本人の場合に「囲碁将棋」が入らないのはまずいだろうと考えてのことだ。ダンドラーエ調査との差がこのように大きくなっているのが、これを加えたからかどうかは、判断がむずかしいところだ。比較的時間に余裕のある学生生活と親近性のあるものとも考えられる。17位の「平穩（静寂）であること」への評価が成城調査で低いのも同じ理由ではないかと思われる。

差が14位の「the US military」の「翻訳」には比較調査の困難さが端的に現れている。現状では日本に「軍隊」はないため、「日本の軍隊」と訳すと「再軍備」を支持するかどうかを問うものとなりかねない。成城調査では「日本の自衛隊」としたものの、「the US military」ということばがアメリカ人に生み出すであろうものとは異なるものを日本人回答者に想起させることになっているだろう。

33項目中、「物事の科学的根拠を学ぶこと」（12位）、「科学」（22位）、「科学を理解すること」（27位）、「普遍的真理を追究すること」（32位）と4項目も科学理解に関連する項目が入っている。このうち最初のものは2つの質問紙で日本語が若干異なっているが、そのほかの3つは同じ日本語となっている。そのために、この点に関しては、2つのサンプルで「一貫した」差があると言え

るだろう。いずれも、残念なことながら、成城調査の評定平均がダンドラーデ調査よりもかなり低くなっている。

4位の「居場所がある」と「所属している」、8位の「さっさとすませる」と「片付けること」、11位の「価値ある存在」と「重要な人」というのはそれほど大きな違いとは思われないが、それでも、これらのことばが想起するものや状況は異なるだろう。一般的に、「価値あるもの」としてその表現がマスメディアに登場したようなものでないと、質問紙によってその価値付けを問うのはむずかしくなるという印象がある。9位の「sustainable」ということばがその好例だ。「持続可能」という表現が日本社会でどれだけ認知されるようになったかということが大きく反映されているのだろうと思われる。たとえば、「インフォームドコンセント」ということばが10年前には「価値」として挙げてもほとんど理解されなかっただろうということを考えてみればいだろう。

26位の「ひと（他人）に対して権威を持つこと」は、日本文の表現としてはそれほど大きな違いがあるとは思わない。だが、「others」を「他人」と訳すのは問題があるときがある。というのは、日本人の場合、「他人」というときに一般的には家族を含まないからだ。だが、「having authority over others」と英語で言うときには、家族にたいする権威も含むことになる。成城調査で「ひと」と訳したゆえんである。

実は、南自身がよく理解できていない項目もある。たとえば、「taking the initiative」という項目だ。どちらの質問紙でも「イニシアチブを取ること」と「訳」されて、成城調査で-0.66、ダンドラーデ調査では-0.78とあまり差はない。「being a leader」という項目があるのだが、「みんなのリーダーであること」との違いがわからない。アメリカ人調査の結果をクラスター分析して、ダンドラーデは「taking the initiative」を「self-determination」の下位カテゴリーの「choosing my own goals」クラスターの1項目としている。この分析については4節で紹介するが、アメリカ人は「being a leader」ということとはかなり異質なものと理解しているということだ。

翻訳にいちばん悩んだものに「holding myself to high standards」がある。ダンドラーデ調査では「高い水準に自分を保つこと」とされていたが、なにが言いたいのかよくわからない。専門家の提案を受けて「高い目標レベルを設定して、それを達成し維持すること」としてみた。2つのサンプルで平均値に大

きな差はなかったが、このことがなにを反映しているかの解釈はむずかしい。

世論調査においては、質問文や回答形式の違いが結果に大きな影響をあたえるということはよく知られている（平松 1998）。質問紙サーヴェイでは、「ワーディング」ということばで文章表現の問題が指摘されている（中道 1997）。本節では、異なる言語間での翻訳の問題を具体的な調査結果に即して、ワーディングについて考察した。多義的な単語の解釈を中心として、訳語の選択が回答に影響していると考えられるものがあった。「dream」や「future」、「others」などがその例だ。「the US military」のように、対応する指示対象が存在しないものもあった。価値あるものとして、日本社会ではまだ認知されていないような「sustainable development」といったものもあった。「等価な刺激文」への回答であるという前提が成立するからこそ多様な回答が集計可能となるのだが、この基本前提を充足する翻訳の困難さを再確認することとなった。

4. 高評価の価値項目

ダンドラーデとライニンガーはその書物において、日本とアメリカ、ヴェトナムの3つの文化で価値の構造が異なっているかどうかを根本的な調査疑問としている。まず、項目間の相関にたいしてクラスター分析を行っている。クラスター分析の結果から、58のクラスターをつくる。つぎに、各クラスターごとの評定平均を各回答者について計算している。これに主成分分析を行って、3つの因子を抽出している。第1因子として個人主義 (individualism) と集団主義 (collectivism) の軸、愛他主義 (altruism) と自己利益 (self-interest) の軸が第2因子、第3因子が勤勉 (industry) と弛緩 (relaxation) の軸となった。58のクラスターはこれらの因子への負荷量にしたがって分類された。

328項目間の相関係数を計算すると、アメリカ人サンプルと日本人サンプルでは0.79だった。そのほかの分析も踏まえて、日本人が「集団主義」的であり、アメリカ人が「個人主義」的であるという一般通念は価値についてはあてはまらないとダンドラーデは結論している。だが、全体構造が類似しているからといって、まったく同じというわけではない。その独自性が顕著に見られるのが、評定値の高い項目というわけだ。

本節では、成城調査の評定平均値上位22項目を紹介していく。上で述べた

クラスター分析や主成分分析を成城調査の結果にも実施して、追試しておく必要を感じている。しかし、本論では諸般の事情でこれは行わない。つぎの機会を期すことにしたい。

表 6. 成城調査の上位 22 項目

成城調査の順位	成城調査の日本語	ダンロラデー調査の順位	ダンロラデー調査の日本語	成城調査の平均値	ダンロラデー調査の平均値
1	自分を支えてくれる親しい女だちを持つこと	4	親密で支えてくれる友達を持つこと	1.24	1.03
2	人生を楽しむこと	9	同左	1.07	0.92
3	健康であること	1	同左	1.07	1.25
4	眠ること	18	同左	1.06	0.83
5	人の命を尊ぶこと	3	人の命を重視する	0.97	1.12
6	友だちを作ること	6	友達を作ること	0.97	0.99
7	なんでも打ち明けられる人がいること	7	心の中を話すことのできる人がいること	0.94	0.95
8	楽しいことをすること	16	楽しむこと	0.94	0.85
9	戦争を避けること	2	同左	0.91	1.24
10	戦争のない世界	5	戦争のない世界を作ること	0.91	1.02
11	愛があること	10	愛情深いこと	0.90	0.90
12	食べること	37	同左	0.89	0.72
13	将来	11	同左	0.86	0.90
14	自分の時間を持つこと	26	同左	0.86	0.77
15	時間を守ること	52	同左	0.82	0.66
16	一生懸命やること	73	熱心に物事をする事	0.82	0.55
17	感謝の気持ちを表すこと	13	感謝の気持ちを表わすこと	0.82	0.87
18	自分の目標を自分で決めること	21	自分自身の目標を選ぶこと	0.79	0.81
19	借金をしないこと	120	借金しないこと	0.78	0.33
20	将来について考えること	58	未来について考えること	0.74	0.64
21	リラックスしていること	14	リラックスすること	0.73	0.86
22	人生を前向きにとらえること	8	前向きな人生観	0.73	0.93

まず、成城調査とダンドラーデの日本人調査の対応を見ておこう。表6は、成城調査で評定平均の高い項目の上位22位までである（表6 成城調査の上位22項目）。22位という中途半端な数字で切ったのは、ダンドラーデ調査で8位の「前向きな人生観」が成城調査では22位だったからだ。そのほかの10位までの項目はすべて、成城調査でも11位までに入っており、上位、とくに10位ぐらいまでに評定される価値項目はほぼ同じとすることができる。だが、成城調査で12位から22位とされているもののなかには、ダンドラーデ調査で120位とされた「借金（を）しないこと」（括弧内は成城調査の日本語である。以下同じ；成城調査で19位）や37位の「食べること」（成城調査で12位）、52位の「時間を守ること」（成城調査で15位）、73位の「熱心に物事をする（一生懸命やること）」（成城調査で16位）、58位の「未来（将来）について考えること」（成城調査で20位）と、順位がかなり食い違うものもある。このうちの最後の2つは、日本語がかなり違っており、それが回答に反映されているという可能性が考えられる。また、「時間を守ること」は社会人にとっては当然のことであり、わざわざ価値付けるようなものとは感じられていないという可能性も指摘できる。いずれにしても、日本語表現の問題はここでも看過できない。2つのサンプルで上位22項目に違いがあるからといって、そのことかなに言えるのかは単純には答えられないということを確認しておこう。そのうえで、以下では日本人データとしては成城調査の結果を中心に言及していくことにする。

まず特徴的なのは、「友だち」に関わる3つの項目が上位10位までに入っていることだ。「自分を支えてくれる親しい友だちを持つこと」が1位、「友だちを作ること」が6位、「なんでも打ち明けられる人がいること」が7位である。ダンドラーデの日本人調査でもこれら3項目は上位10位以内に入っており、「友だち」に関する価値が日本人に特徴的なものとなっている。もう1つの特徴が、戦争に関するものだ。「戦争を避けること」が9位で「戦争のない世界」が10位に入っている。

表7. ダンドラーデ調査の日米上位11項目

順	アメリカ人調査の上位11項目	ダンドラーデの日本人調査の上位11項目
1	enjoying life	健康であること
2	being a good person	戦争を避けること
3	having a personally fulfilling life	人の命を重視する
4	having love	親密で支えてくれる友達を持つこと
5	having someone I can really talk to	戦争のない世界を作ること
6	choosing my own goals	友達を作ること
7	being true to myself	心の中を話すことのできる人がいること
8	finding a mate with good moral and intellectual qualities	前向きな人生観
9	having wisdom	人生を楽しむこと
10	being independent and self-reliant	愛情深いこと
11	having close supportive friends	将来

日本人（ダンドラーデ調査）とアメリカ人、ヴェトナム人の上位10位までの項目を比較して、ダンドラーデたちは次のように言っている。

われわれのデータについて、つぎのことがわかった。各社会の上位10項目に重複はほとんどない。この結果が表に示されている（表7 ダンドラーデ調査の日米上位11項目）。⁸⁾ アメリカ人にとっては、これら上位の価値は、特有のアメリカ的価値を有している。つまり、以下の4つのあいだの複合的なバランスを示していると言える。個人的な満足（人生をたのしむこと、一人の人間として満たされた生活を送ること）、自己決定（自分の目標を自分で決めること、人にたよらず自立していること）、情緒的な社会関係があること（愛があること、なんでも打ち明けられる人がいること、道徳的で知的な（結婚）相手を見つけること）、美德（善人であること、自分に正直であること）。同様に文化レベルで特徴的なのは、ヴェトナム人では家族と適切な行動に関する項目、日本人では戦争の回避と親密な友だちに関わる項目だ。（5章の3ページ）。

このように、ダンドラーデたちはアメリカ人の上位10項目中9つについて、4つのカテゴリーにまとめている。

実は、このレベルのカテゴリー化、それに含まれる「解釈」がいちばんやっかいなところだ。ある項目の意味は、その項目を考えればよい。だが、いくつかの項目を同じカテゴリーにまとめるということは、「友だち」や「戦争」と

いった共通のキーワードがある場合には大きな問題とならないが、そうでない場合には、その根拠をどう確保するかがつねに問われる。ダンドラーデは、主成分分析やクラスター分析といった相関分析を多用して、カテゴリー化の根拠としている。

構造については、あまり立ち入る用意がないのだが、1つだけ指摘をしておきたい。上で「友だち」に関する3つの項目が上位10位までに入っていると述べたが、これらがダンドラーデの価値構造では、「愛他主義」極のなかの「平等主義 (egalitarianism)」という大クラスターに位置する「親しい友だちがいること」クラスター内のものとされていることだ。このクラスターには、全部で11項目が含まれている。3つのほかは、「getting along with others (ひととうまくやっていくこと)」、「being pleasant (性格がおだやかであること)」、「having trust in others (ひとを信頼すること)」、「getting along with others through mutual concession (譲歩しあって、ひととうまくやっていくこと)」、「being modest (謙虚であること)」、「keeping in touch with old friends (昔からの友だちと連絡をとり続けること)」、「taking care of others (ひとの世話をすること)」、「being open about feelings (感情に率直であること)」である。因子への負荷量などを踏まえての分類だが、これらを1つのクラスターとすること、そして、これを含む大クラスターや軸の命名などについてはわかには納得しがたい。詳細な検討が必要であり、本論ではその準備がないと述べているゆえんだ。

本節の最後に、日本人の上位10項目に不在のものを指摘しておきたい。それは、自己、あるいは「内面」に関するものだ。上の引用でアメリカ人の特徴としてダンドラーデが「美德」としてまとめたものだ。「善人であること」にしても、「自分に正直であること」にしても、自己のありように関するものと言える。成城調査の上位では、24位に「自分の過ちを認めること」、30位に「自分を向上させること」が入っている。これをもって、日本人の価値構造においては自己への関心が上位に来ていないと言いたいところだが、データを詳細に検討した上で言うべきところであり、これも今後の課題としたい。

5. 勤労倫理の比較

最後に、そもそも本研究を行うきっかけとなった調査疑問に関連するものを見ておく。それは、「勤労倫理 (work ethic)」に関わるものだ。アメリカ生活経験のある帰国子女は、勤労倫理の価値付けにおいて「日本人」とは異なっているのだろうか。

表 8. 帰国子女調査回答者の性別在外年数

	在外年数					合計
	1年	2年	3年	4年	5年以上	
性 女性 度数	1		4	5	3	13
性の%	7.7%		30.8%	38.5%	23.1%	100.0%
在外年数グループの%	100.0%		57.1%	55.6%	50.0%	52.0%
男性 度数		2	3	4	3	12
性の%		16.7%	25.0%	33.3%	25.0%	100.0%
在外年数グループの%		100.0%	42.9%	44.4%	50.0%	48.0%
合計 度数	1	2	7	9	6	25
性の%	4.0%	8.0%	28.0%	36.0%	24.0%	100.0%

帰国子女調査の手続きは2節で紹介したが、あまり多くの回答を得ることはできなかった。いろいろとやってみたが、女性13人、男性12人の合計25人から回答が得られるにとどまった（表8 帰国子女調査回答者の性別在外年数）。在外年数としては、1年が1人、2年が2人、3年が7人、4年が9人、5年以上が6人となった。年齢は20歳から31歳までで、平均は24.2歳だった。成城調査の対象者にも、少数ながら1年以上海外に暮らした経験がある者がいる（18人で8.7%）。これらの回答者の海外経験がどのようなものかはわからないが、帰国子女サンプルと成城サンプルとでは、海外生活経験のほかに、年齢の違いという要因が関係していることは考えられる。⁹⁾

表9. 勤勉のクラスターと項目

日本文	成城調査での順位	帰国子女調査順位	成城調査の項目数	クラスターに属する成城調査の項目番号	成城調査のクラスター平均値	帰国子女調査の項目平均値
高い水準を持つこと(高い目標を立てて、そこに自分を維持すること)	23	23	6	37; 2; 33; 209; 77; 103	0.16	0.16
知識を求めて、いろいろなことを知っていること(いろいろなことを知っていること)	10	19	9	119; 11; 117; 126; 46; 273; 56; 91; 136	0.38	0.18
みんなのリーダーであること	40	41	5	76; 313; 244; 31; 264	-0.36	-0.80
ねばり強いこと	6	27	6	99; 211; 191; 269; 232; 137	0.48	0.04
一生懸命やること	30	15	4	98; 167; 307; 192	0.01	0.49
規則正しく、整然としていること	29	33	9	50; 102; 1; 258; 143; 322; 174; 255; 213	0.02	-0.37
責任をとること	15	3	5	57; 277; 41; 227; 121	0.30	0.92
将来の計画を立てること	5	25	4	166; 270; 12; 281	0.50	0.10
実用性を重んじ、現実的であること	22	32	3	276; 88; 205	0.18	-0.32
眠ること、食べること、飲むこと	7	3	3	125; 254; 220	0.47	0.93
世の中の出来事から距離をおき(無関心で)、運命をそのまま受け入れること	46	47	8	294; 149; 104; 188; 168; 92; 39; 230	-0.74	-1.71

帰国子女調査の質問項目は64項目とした。このうち6項目は南が新たに付け加えたものだ。ここでは、成城調査との比較対照が可能な47項目のうち、ダンドラーデが勤勉—弛緩の軸との因子負荷量が高いとした11のものを取り上げる。表9にその日本文(括弧内は、クラスターの日本文と異なっている場合の、帰国子女調査の項目日本文)と、成城調査と帰国子女調査での、これらの項目の順位(47項目中)、さらに、クラスターに配置された成城調査での項目数とその項目番号、そして、成城調査のクラスター平均値と帰国子女調査の項目平均値とを提示した。この表をもとに以下の議論を進めるが、いくつかの留保が必要だ。

第1に、「項目」と呼んでいるものの、成城調査では項目への評定値そのままではなく、クラスターごとの平均値となっている点だ。ダンドラーデは328項目への評定値を回答者ごとに標準化したものを基本データとしているが、これをクラスター分析し、さらに主成分分析している。ここで取り上げている

11のクラスターは、表9の「成城調査の項目数」という列に示されているように、それぞれ3項目から9項目の平均値であり、全部で62項目がここで使われていることになる。

第2に、計算の基盤となる回答者ごとの価値評定の計算の仕方の問題がある。帰国子女調査の場合は、58項目の5段階尺度への評定値について回答者ごとの平均値と標準偏差を算出して、これらを使って標準化している。そのうえで、比較可能な47項目を選びだしている。成城調査の場合は、328項目の5段階の回答を回答者ごとに標準化して、それをもとに58クラスターの平均を回答者ごと、そして、207人のサンプルで平均している。58のうちの47を選んで使っているというように、ここでの順位計算では使っていないものが2割ほどある。¹⁰⁾

上記の事情から、項目平均とクラスターに配置された項目平均の平均との違いを、分布特性としてどう比較検討すべきかが明確ではないという問題が生じてくる。ただ、そうだとすると、全体の中での順位を比較することにはある程度の意味があるだろうと考えられる。以下の分析はこの前提にたって進めることにする。

さらに言及しておく必要があるのは、勤勉—弛緩の軸に関係するものとして、表9に挙げた11のものを考えるということだ。実は、主成分分析の手続きとしては逆だった。これらの11クラスターの因子負荷量が高い第3主成分を「勤勉—弛緩」の軸としたわけだ。「弛緩 (relaxation)」の極には、「眠ること、食べること、飲むこと」と「世界の出来事に無関心で、運命をそのまま受け入れること」という2つのクラスターが位置づけられている。残りの9つは「勤勉 (industry)」の極である。このような極の命名が適切なものであるかどうか、こういった分析においては問題となる。

「勤労倫理 (work ethic)」と言うときに、「勤勉」の9つのクラスターのなかでは、南の直感的理解としては「ねばり強いこと」と「一生懸命やること」の2つがまず思い浮かぶ。残りの7つは、言われてみればそうかもしれないと思うが、「勤労倫理」をそこまで広くとらえて良いのだろうかという気もする。ただ、「仕事をやり遂げること」という意味で「勤勉」を理解するならば、9つはその構成要素として納得できるものと感じられなくもない。「価値の構造」というダンドラーたちの研究の根本課題にかかわるものであり、この点を理

論的にどう整理すべきかをここで論じる用意はない。今後の課題として、とりあえずは指摘しておくに留めたい。

さて、表9に戻って調査結果を検討することにしよう。帰国子女調査の項目順位を、成城調査の順位と比べてみると、かなり類似しているという印象を持つ。順位差が10を越えて大きく離れているのは、「ねばり強いこと」、「一生懸命やること」、「責任をとること」、「将来の計画を立てること」、の4つである。これらのうち3つは、項目とクラスターを比較するという手続きが関係していると思われる。まず、「一生懸命やること」についてみよう。表10に「一生懸命やること」クラスターの4つの項目の平均値を示した。4項目の平均値であるクラスター値は0.01だが、「一生懸命やること」という成城調査の質問文項目でみると0.82であり、328項目中の16位となっている（表6参照）。「物事をさっさと済ませること」や「忙しいこと」という負の値となった項目と平均することで、このクラスターの平均値が0.01となってしまっているのだ。そのために、成城調査での順位が押し下げられていると思われる。

表 10. 「一生懸命やること」クラスターの4項目

項目 番号	日本語	成城調 査の平 均値	成城調査				
			below av	-0.5	0	above av	0.5
			-1.0	-0.5	0	0.5	1.0
			---:-----:-----:-----:-----:-----				
98	一生懸命やること	0.82				=====	====
167	物事をさっさと済ませること	-0.27		===			
307	やるべきことを時間通りに済ませること	0.10				=	
192	忙しいこと	-0.62		=:	=====		

「責任をとること」についても同じことが言える。5つの項目中、4項目の平均値がプラスである中に1つマイナスのものがあり、クラスターとしての順位が低くなっていると思われる。逆に、「将来の計画を立てること」には、クラスター中に高く評定された項目が2つあり、そのために成城調査での平均値が高くなっている。こう見てくると、帰国子女調査と成城調査とで順位に明確な違いがあると思われるのは「ねばり強いこと」だけであり、帰国子女で低くなっている。そのほかのものでは、特段の違いがあるとは言えないと結論することができる。

さて、これらをふまえると、日本人の「勤労倫理」についてどんなことが言えるだろうか。回答は回答者ごとに標準化しているので、総平均はゼロである。そのため、数値がプラスかマイナスかを中心にしてみると、帰国子女調査と成城調査とでともに高く価値付けされたのは、「一生懸命やること」と「責任を取ること」の2つぐらいだ。逆に、一貫して平均より低い価値付けとなったのが、「みんなのリーダーであること」だった。残りの6つのものは価値付けが平均より大きく上か下かと言うことはできないようだ。

結論としては、帰国子女と成城生とで「勤労倫理」には大きな差はなかった。あるいは、少なくとも、本調査ではその差を見いだすことはできなかったということになるだろう。「勤労倫理」の構成要素のなかでは、「一生懸命やること」と「責任を取ること」の価値付けがほかのものに比べると高かった。ただ、「勤勉」の軸にグループ化された価値が、そのほかの価値グループ群よりも高いかどうかは、本分析では決定することができなかった。

ひるがえって考えるに、ここで検討した9クラスターが「勤勉」の内容として適切なものかどうか、という疑問は残る。これら9クラスターは、最初の3つが「努力すること (striving)」という大クラスターで、つぎの4つが「精励 (diligence)」、最後の2つが「先の読めること (canniness)」とされている。訳語の問題も絡んでくるが、「努力すること (striving)」大クラスターが「having high standards (高い水準に自分を保つこと)」と「pursuing knowledge and being well informed (知識を追求して、いろいろなことを知っていること)」、**「being a leader (みんなのリーダーであること)」**であり、「精励 (diligence)」大クラスターが「being persistent (ねばり強いこと)」、「working hard (一生懸命やること)」、「being orderly and regular (規則正しく、整然としていること)」、「being responsible (責任を取ること)」というのも、そうなのだろうか、と首をかしげたいところもある。「先の読めること (canniness)」という大クラスターにいたっては、これが「勤勉 (industry)」の問題なのだろうかという疑問が浮かぶ。これは、繰り返しとなるが、主成分分析における軸の解釈の問題であり、本論で南が検討する用意が整っているとは言えないものである。ダンドラーデは、この第3軸が存在するという分析結果をもって、勤勉はアメリカ、日本、ヴェトナムの3つの文化に普遍的な価値であると結論している。この結論の適否も含めて今後の課題としたい。

成城調査と帰国子女調査からは、勤勉の価値付けに両群で差はないという結果が得られた。だが、「それがどうした」と言われると困ってしまう。ダンドラーデたちは、日本文化について検討した章において、価値は価値であり、実践 (practice) とは異なると結論づけている。日本文化には集団主義的实践は多いが、「価値」としてみると集団主義的ではなかったというのだ。南にも、この結論は穏当なものと思われる。だが、そうだとするならば、実践、行動と結びついていない「価値」とはなんなのだろう。これを研究してどんな意義があるのかという問いも含めて、つぎの論考において検討することにしたい。

注

- 1) 本論が素材としている調査の実施にあたっては、成城大学特別研究費の助成を受けた(2003-04年度「勤労倫理研究と価値比較質問紙調査」)。本論は、その報告書として執筆された。調査質問紙の使用を許可し、データの分析も手伝っていただいたダンドラーデ博士には大なる感謝を表したい。統計分析については、情報・システム研究機構統計数理研究所の南美穂子助教授の助言を受けた。最後に、調査に協力いただいたかたがたや組織に謝意を表しておきたい。なお、個人や組織の名称は本論では仮名を使用している。
- 2) 論文の本文において調査協力者などに敬称を使用するには違和感があるかもしれない。1節は研究の経緯を紹介するものであり、例外的なものとして了解されたい。
- 3) ダンドラーデ博士から受け取った質問紙は、フェイスシート項目のほかに329項目から成り立っていた。だが、検討してみると、同じ項目「社会正義のために努めること」が2回出ていた。そのために、南はこの重複を除いて、新たに7項目を加え、合計335項目とした。
- 4) まるめ誤差のため、各セルの合計はかならずしも「100.0%」にはなっていない。これは、以下の表についても同じである。
- 5) ただし、人口統計学的な要因によって回答に差があるかどうかを検討した結果は報告されている。アメリカ人データでは、宗教によって価値に差があるということだ。なお、ダンドラーデ博士は2003年秋からコネチカット大学に移籍している。
- 6) 付表1の補助的データとして、各サンプルの平均の標準偏差を紹介しておく。成城調査は回答数が207であり、平均の標準偏差が最大のものは0.10(項目237)で、最小のものは0.04(項目236)であった。ダンドラーデの日本人調査(回答数61)では、0.28(項目291)が最大、0.06(項目110)が最小だった。アメリカ人調査は

回答数が210であり、最大が0.09（項目259）、最小が0.03（項目285）だった。ヴェトナム人調査（回答数248）では、0.09（項目259）が最大、0.00（項目130）が最小だった。ただし、これらの数値は欠損回答がないものと想定して計算したものである。

なお、成城調査では、あらたに以下の7項目を加えた。「まじめに勉強して、名をあげること」（項目130）、「金や名誉を考えずに、自分の興味にあったくらし方をすること」（項目228）、「その日その日を、のんきにクヨクヨしないでくらすこと」（項目263）、「世の中の正しくないことを押しのけて、どこまでも清く正しくくらすこと」（項目299）、「選択の自由があり、人生を思い通りにすること」（項目319）、「世の中をより良い場所にするために、なにかをすること」（項目329）、「自分の一身のことを考えずに、社会のためにすべてを捧げてくらすこと」（項目335）。項目番号は、これらの新項目を含めた番号であり、成城調査の質問紙では、ダンドラーデの日本人調査とは、これらの項目が入った分だけずれている。

- 7) これにはある留保が必要だ。というのは、「変更」したというものの、「出来る」をひらがなにしたり、「表わす」を「表す」としたりといった表記上のものもあるからだ。これを、変更していないものを含めると、結果が変わってくる可能性はある。
- 8) ヴィエトナム人の上位項目は削除している。また、11位を付け加えている。ダンドラーデの日本人調査で4位のもので出ているからだ。
- 9) 在外経験について言うと、成城調査の回答者では高校時代に海外の現地校で教育を受けた者はいないと推測される。成城大学では入学者選抜で帰国子女枠を設けていないからだ。フランスのアルザスに系列の高等学校があるので、そこに在籍した学生が回答者にいるということは考えられる。だが、アルザス校は日本のカリキュラムに基づいて日本語で授業が行われており、「海外生活経験」といっても、南の帰国子女調査の対象者がS市で経験したものと大きく異なっていると思われる。
- 10) 2002年8月に受け取った資料では、ダンドラーデは56のクラスターを使っていた。南は、帰国子女調査の質問紙を作成するときにこれに依拠した。2004年8月に送られてきた著書原稿では58クラスターとなり、使われている価値内容も若干変更があった。そのために、56ないし58中、47のものについてここで比較できることとなった。

文 献

- D'Andrade, R. & Leininger, A. in preparation. *A study of values*.
- 電通総研；余暇開発センター編. 1999. 『世界23カ国価値観データブック』同友館.
- 平松貞実. 1998. 『世論調査で社会が読めるか：事例による社会調査入門』新曜社.
- Minami, Y. 1993. *Growing up in two cultures: The educational experiences of Japanese students in America and their return to Japan*. Ph.D. diss. University of California, San Diego.
- Minami, Y. 2003. Student careers of Japanese returnee children: Implications for social reproduction. 『成城文藝』182: 124-100.
- 南 保輔. 2000. 『海外帰国子女のアイデンティティ：生活経験と通文化的人間形成』東信堂.
- 南 保輔. 2002. 海外帰国子女の学生経歴とライフコース：追跡調査に向けて. 『コミュニケーション紀要』15: 33-55.
- 見田宗介. 1966. 『価値意識の理論』弘文堂.
- 中道 實. 1997. 『社会調査方法論』恒星社厚生閣.
- NHK 放送文化研究所編. 2004. 『現代日本人の意識構造（第6版）』日本放送出版協会.
- Suchman, L. & Jordan, B. 1992. Validity and the collaborative construction of meaning in face-to-face surveys. In Tanur, J. M. ed. *Questions about questions: Inquiries into cognitive bases of surveys*. Russell Sage. 241-267.
- 統計数理研究所国民性調査委員会. 2004. 『国民性の研究第11次全国調査：2003年全国調査』統計数理研究所.
- Tsukada, M. 1991. *Yobiko life: A study of the legitimation process of social stratification in Japan*. Institute of East Asian Studies, University of California, Berkeley.
- Weber, M. 1920 = 1989. 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』大塚久雄訳. 岩波文庫.

付表 1. 項目の回答平均値一覧 (項目 1 - 23)

項目番号	英文	成城調査の日本語	ダンドラーズ調査の日本語	成城調査の平均値	ダンドラーズ調査の日本人	全体の平均値の調査	ダンドラーズ調査の平均値のズメリ	ダンドラーズ調査の平均値	ダンドラーズ調査の平均値
				(207)	(61)	(519)	(210)	(248)	
1	paying attention to details	仕事などにおいて、細かいところにも注意を払うこと	細かい気配りをする	0.35	0.35	0.16	0.28	-0.16	
2	being competent and effective	有能で仕事がこなせること	有能で実力がある	0.37	0.28	0.51	0.71	0.53	
3	being pleasant	性格がおだやかであること	愛想の良い	0.31	0.12	0.38	0.51	0.53	
4	going to concerts	コンサートに行くこと	同左	-0.79	-1.03	-1.01	-0.92	-1.09	
5	being competitive	競争力のあること	同左	-0.14	-0.12	-0.31	-0.38	-0.42	
6	spending time by myself	ひとりの時間を持つこと	一人で時間を過ごす	0.61	0.14	0.07	0.25	-0.19	
7	paying attention to omens	何かの前兆を気にすること	何かの前兆があればそれを気に留める	-0.57	-0.33	-0.78	-1.28	-0.73	
8	having peace and quiet	平穏静寂であること	平穏である	-0.18	0.51	0.27	0.24	0.04	
9	being one of the elite	エリートであること	エリートの人である	-1.13	-1.00	-0.77	-0.79	-0.51	
10	having someone I can really talk to	なんでも打ち明けられる人がいる	心の中を話すことのできる人がいる	0.94	0.95	0.58	0.88	-0.10	
11	having wisdom	賢明であること	同左	0.45	0.50	0.51	0.81	0.21	
12	planning for the future	将来の計画を立てること	将来の設計をすること	-0.50	-0.80	-0.81	-1.01	-0.62	
13	labor unions	労働組合	同左	-0.08	0.26	0.01	0.38	-0.61	
14	being open about feelings	感情に率直であること	性的自由	-0.26	-0.54	-0.50	0.07	-1.04	
15	sexual freedom	性に関する自由	性的自由	0.64	0.57	0.52	0.72	0.27	
16	having freedom of speech and action	言論と行動の自由があること	言論と行動の自由である	0.73	0.86	0.51	0.63	0.03	
17	being relaxed	リラックスしていること	リラックスすること	0.45	0.08	-0.34	-0.44	-0.65	
18	being lucky	運が強いこと	同左	-0.01	-0.01	0.05	0.09	0.08	
19	not being poor	貧しくないこと	同左	-1.25	-1.97	-1.64	-1.40	-1.55	
20	playing board games (checkers, Monopoly, etc)	ボードゲーム (囲碁将棋、チェッカー、モノポリー等) をすること	ボードゲーム (チェッカー、モノポリー等) で遊ぶ	-0.20	-0.12	-0.32	-0.69	-0.13	
21	capitalism	資本主義	同左	0.37	0.82	0.82	0.76	0.88	
22	following my conscience and doing right	良心にしたがい正しい行いをすること	良心に従って正しい行いをすること	0.69	0.45	0.58	0.65	0.64	
23	getting along with others	ひととうまくやっっていくこと	他人とうまく付き合う						

付表 1. 項目の回答平均値一覧 (項目 24 - 44)

項目番号	英文	成城調査の日本語	ダンドラーズ調査の日本語	成城調査の平均値	ダンドラーズ調査の日本人平均値	全体の平均値	ダンドラーズ調査の平均値	ダンドラーズ調査の平均値	ダンドラーズ調査の平均値
				(207)	(61)	(519)	(210)	(248)	
24	my country	わたしの国	自分の国	0.17	0.10	0.19	0.19	0.59	0.59
25	getting my own way	ものがご自分が思い通りになること	物事が自分の思い通りに行くこと	-0.29	-0.18	-0.13	-0.32	0.10	0.10
26	marrying someone my parents would approve of	親が認めるであろう人と結婚すること	親の認める人と結婚すること	-1.04	-1.19	-0.75	-0.49	-0.55	-0.55
27	paying income tax	所得税を払うこと	同左	-0.18	-0.30	-0.34	-1.07	0.35	0.35
28	not losing face	面目を失わないこと	同左	-0.25	-0.29	-0.08	-0.26	0.32	0.32
29	coming to terms with the shortness of life	人生が短いということを受容すること	人生の短さを甘受すること	-0.42	-0.48	-0.24	0.36	0.11	0.11
30	owning a good stereo, a nice car, house	大画面テレビ、格好良い車、家を所有すること	いいステレオ、いい車、家を所有すること	-0.91	-0.63	-0.68	-0.54	-0.87	-0.87
31	organizing and coordinating activities	活動を組織し、それに必要な手配をすること	いろいろな活動を組織し、調整すること	-0.48	-0.82	-0.39	-0.45	0.11	0.11
32	respecting others' feelings	ひとの気持ち尊重すること	他人の感情を尊重すること	0.68	0.41	0.53	0.70	0.47	0.47
33	holding myself to high standards	高い目標レベルを設定して、それを達成し維持すること	高い水準に自分を保つこと	0.18	0.14	0.44	0.66	0.53	0.53
34	taking risks	リスクを恐れないこと	危険を厭わないこと	-0.12	-0.44	-0.64	-0.10	-1.39	-1.39
35	limiting the power of government	政府の権限を限定すること	政府の権力を制限すること	-0.50	-0.41	-0.48	-0.48	-0.56	-0.56
36	having a positive self image	前向きな自己イメージを持つこと	前向きな自己像を持つこと	0.48	0.70	0.41	0.59	-0.05	-0.05
37	developing ability and skill	能力やスキルを身につけること	能力や技能を開発すること	0.59	0.68	0.55	0.67	0.28	0.28
38	rights to abortion	妊娠中絶の権利	同左	-0.41	-0.40	-0.47	0.10	-1.11	-1.11
39	not standing out from others	目立たないこと	周りの人々より目立たないこと	-1.21	-1.30	-1.17	-1.41	-0.79	-0.79
40	feeling sympathy for those who are badly off	生活に困っている人びとに同情すること	暮らし向きの良くない人に同情すること	-0.81	-0.83	-0.13	0.04	0.40	0.40
41	taking responsibility for decisions	決めたことに責任を持つこと	決断に対して責任を取ること	0.67	0.74	0.69	0.69	0.64	0.64
42	reading books	本を読むこと	同左	0.43	0.58	0.32	0.26	0.12	0.12
43	working for social justice	社会正義のために尽くすこと	社会正義のために努めること	-0.64	-0.58	-0.07	-0.14	0.52	0.52
44	being important	価値ある存在であること	重要な人であること	0.16	-0.58	-0.45	-0.19	-0.58	-0.58

付表 1. 項目の回答平均値一覽 (項目 45 - 67)

項目番号	英文	成城調査の日本語	ダンドラーズ調査の日本語	成城調査の平均値 (207)	調査の平均値の日本人 (61)	全体の平均値の3調査 (519)	ダンドラーズ調査の平均値アメリカ (210)	ダンドラーズ調査の平均値イェトナム人 (248)
45	overthrowing political elites	政治エリートを打倒すること	政治エリートを倒すこと	-1.15	-1.56	-0.96	-1.31	-0.02
46	seeking explanations	説明を求めること	同左	0.04	0.12	0.24	0.35	0.25
47	not dishonoring my family	家族の名誉を傷つけないこと	同左	0.27	0.41	0.42	0.03	0.82
48	having close supportive friends	自分を支えてくれる親しい友だちを持つこと	親密で支えてくれる友達を持つこと	1.24	1.03	0.67	0.79	0.19
49	knowing my place in the social order	自分の社会的立場を知ること	自分の社会的地位を知ること	-0.09	-0.39	-0.59	-1.18	-0.21
50	being punctual	時間を守ること	同左	0.82	0.66	0.43	0.12	0.49
51	being employed	就職していること	同左	0.07	0.12	0.42	0.35	0.78
52	choosing my own goals	自分の目標を自分で決めること	自分自身の目標を選ぶこと	0.79	0.81	0.75	0.86	0.57
53	having big family gatherings	親戚が大勢集まること	親戚の大きな集まりがあること	-0.73	-1.08	-0.28	-0.10	0.33
54	preserving the family name	姓を保持すること	同左	-0.90	-0.99	-0.34	-0.45	0.43
55	being independent and self-reliant	人にたよらず自立していること	独立し自立すること	0.41	0.61	0.66	0.79	0.57
56	knowing what's going on in the world	世界でなにが起っているかを知ること	世界で起きていることを知ること	0.58	0.60	0.20	0.19	-0.18
57	being responsible	責任をとること	責任があること	0.60	0.70	0.75	0.78	0.76
58	living in harmony with nature	自然と調和して生きること	同左	0.33	0.62	0.35	0.19	0.24
59	being polite and well mannered	礼儀正しくマナーの良いこと	同左	0.68	0.61	0.51	0.36	0.57
60	taking it easy	のんびりやること	同左	0.06	0.11	0.27	0.22	0.48
61	working for group consensus	グループの合意が得られるように努力すること	グループが同意するよう努力すること	0.08	-0.08	-0.08	-0.44	0.28
62	being liked	好かれること	同左	0.19	0.07	0.05	0.07	0.01
63	being modest	謙虚であること	同左	0.21	0.33	0.20	-0.01	0.27
64	not having social distinctions between people	人びとのあいだに社会的な区別がないこと	人々の間に社会的差別をしないこと	0.14	0.83	0.36	-0.14	0.40
65	seeing the best in a situation	ものごとを一番良いようにとらえること	ある状況の中で一番いい面を見ること	-0.22	-0.04	0.13	0.36	0.06
66	battling for a cause	主義主張を守りぬぐこと	主義のために戦うこと	-0.44	-0.68	-0.25	0.07	-0.13
67	being loyal to my friends	友だちに誠実であること	友達に誠実であること	0.68	0.74	0.61	0.75	0.33

付表 1. 項目の回答平均値一覧 (項目 68 - 87)

項目番号	英文	成城調査の日本語	ダンドラーデ調査の日本語	成城調査の平均値	調査の平均値の日本人	全体の平均値の3調査	ダンドラーデの平均値アメリカ	ダンドラーデ調査の平均値の日本人
				(2007)	(61)	(519)	(210)	(248)
68	public schools	公立の学校	公立の学校	-0.16	-0.06	-0.02	0.09	-0.09
69	marrying someone from my own ethnic group	自分と同じ民族の人と結婚すること	自分と同じ民族の人と結婚すること	-1.47	-1.27	-0.91	-1.31	-0.16
70	having emotional ties with the natural environment	自然環境と情緒的なつながりがあること	自然環境と情緒的なつながりがあること	-0.22	-0.30	-0.24	-0.22	-0.20
71	having and raising children	子どもを持って育てること	子どもを持って育てること	0.03	0.24	0.40	0.38	0.59
72	living the life of a farmer	農民として人生を送ること	農民として人生を送ること	-1.12	-1.41	-1.41	-1.65	-1.16
73	gaining experience and wisdom from suffering	苦難から経験と知恵を得ること	苦難から経験と知恵を得ること	0.66	0.70	0.30	-0.18	0.39
74	taking good care of one's belongings	自分の持ち物を大切にすること	自分の持ち物を大切にすること	0.45	0.36	0.24	0.11	0.25
75	being thrifty	儉約すること	儉約すること	0.00	0.03	0.06	-0.28	0.43
76	good leadership	優れたリーダーシップ	優れたリーダーシップ	-0.12	-0.09	0.25	0.32	0.52
77	maintaining high standards	高い水準を維持すること	高い水準を維持すること	-0.23	0.09	0.25	0.53	0.15
78	having a secure job	安定した仕事があること	安定した仕事があること	0.25	0.18	0.44	0.38	0.75
79	questioning ideas everyone believes are true	たれもが真実だと思っていることに疑問を投げかけること	誰もが信じている考えに疑問を持つこと	-0.20	-0.24	-0.25	0.00	-0.50
80	accepting people as they are	人びとをありのままに受け入れること	人々をそのままの姿で受け入れること	-0.15	0.02	0.25	0.53	0.21
81	using firm discipline with children	子どもをしっかりとしつけること	子供にしっかりとした躾を行なうこと	0.47	0.70	0.00	-0.33	-0.36
82	being close to my family	家族と親密であること	家族と親密であること	0.60	0.71	0.67	0.66	0.64
83	having a rich fantasy life	豊かな空想の世界を持つこと	自分の心に空想の世界があること	0.06	0.05	-0.42	-0.64	-0.69
84	being alone	ひとりであること	一人で行っていること	-0.02	-0.08	-0.52	-0.60	-0.87
85	government based on laws	法律に基づいた政府	同左	-0.13	0.47	0.25	-0.13	0.40
86	fitting in	とけ込むこと	調和すること	0.05	0.21	0.02	-0.68	0.53
87	having deep respect for parents and grandparents	両親や祖父母を深く尊敬すること	父母や祖父母に深い尊重の念を持つこと	0.29	0.27	0.56	0.42	0.98

付表 1. 項目の回答平均値一覧 (項目 88 - 111)

項目番号	英文	成城調査の日本語	ダントラナー調査の日本語	成城調査の平均値	調査の日本人の平均値	全体の平均値 (3 調査)	ダントラナーの平均値 (アメリカ)	ダントラナーの平均値 (イギリス)
				(207)	(61)	(519)	(210)	(248)
88	being practical	実用性を重んじること	実用的であること	-0.04	0.18	0.23	0.23	0.28
89	improving social conditions	社会状況を改善すること	同左	0.12	0.27	0.25	0.15	0.32
90	having a satisfying sexual life	満たされた性生活を送ること	同左	-0.16	0.12	-0.08	0.35	-0.70
91	being well informed	いろいろなことを知っていること	色々な話題や情報を持っていること	0.48	0.39	0.17	0.39	-0.28
92	staying out of politics	政治に関わらないこと	政治から距離を置くこと	-1.40	-0.96	-0.91	-0.75	-1.02
93	watching TV	テレビを見ること	同左	-0.19	-0.55	-0.76	-1.07	-0.66
94	maintaining national security	国の安全保障を維持すること	国家の安全を維持すること	0.15	0.39	0.15	-0.46	0.53
95	being approved of	ひとから認められること	人から認められること	0.18	0.15	-0.02	-0.34	0.12
96	eating in restaurants	外食すること	同左	-0.85	-0.93	-0.87	-0.49	-1.17
97	being patient	忍耐強いこと	辛抱強いこと	0.41	0.24	0.36	0.42	0.40
98	working hard	一生懸命やること	熱心に物事をする	0.82	0.55	0.60	0.67	0.59
99	being persistent	ねばり強いこと	あきらめずに頑張ること	0.57	0.78	0.60	0.52	0.51
100	having a close-knit family	強い絆で結ばれた家族を持つこと	家族の絆が強いこと	0.66	0.68	0.67	0.61	0.70
101	national health care	健康保険制度	国民保険管理	0.21	0.21	0.19	-0.19	0.54
102	being prepared	準備万端であること	常に備えていること	0.09	0.05	0.27	0.44	0.31
103	trying to be the best	最高であらうとすること	一番になるように努めること	-0.23	-0.82	-0.33	0.01	-0.16
104	accepting one's fate	運命を受け入れること	同左	-0.36	-0.18	-0.35	-0.44	-0.45
105	being guided by religious scriptures	宗教教典に導かれること	宗教教典から導かれること	-1.72	-1.66	-1.23	-1.25	-0.79
106	being careful and avoiding unnecessary risks	慎重にして、不要なリスクを避けること	慎重にして、不要な危険を避けること	-0.46	0.01	-0.23	-0.60	-0.09
107	resisting authority	権威に抵抗すること	同左	-0.73	-0.70	-1.05	-1.13	-1.31
108	joking around	おもろいことを言うこと	おどけ者であること	0.20	-1.40	-0.79	0.28	-1.26
109	enjoying life	人生をたのしむこと	人生を楽しむこと	1.07	0.92	0.50	0.96	-0.39
110	taking the viewpoint of others	他人の視点から物事を見ること	他人の立場で物事を見ること	0.51	0.65	0.11	-0.36	0.02
111	having a long life	長生きすること	同左	-0.44	-0.26	-0.02	0.20	0.00

付表 1. 項目の回答平均値一覧 (項目 112 - 137)

項目番号	英文	成城調査の日本語	ダンドラーザ調査の日本語	成城調査の平均値	ダンドラーザ調査の日本人	全体の平均値	ダンドラーザ調査の平均値	ダンドラーザ調査の平均値	ダンドラーザ調査の平均値
				(207)	(61)	(519)	(210)	(248)	
112	not sleeping around	不特定多数の人と性的関係を持たないこと	不特定多数の性的関係を持たないこと	-0.11	0.45	0.38	0.37	0.32	
113	giving to charity	慈善事業に寄付すること	同左	-0.69	-0.58	-0.15	-0.02	0.14	
114	taking responsibility for my siblings	きょうだいのために責任を負うこと	兄弟のために責任を負うこと	-0.42	-0.44	-0.06	-0.19	0.46	
115	protecting the environment	環境を保護すること	同左	0.42	0.69	0.40	0.19	0.33	
116	maintaining old traditions	昔からの伝統を大切にすること	代々の伝統を維持すること	0.13	-0.24	-0.07	-0.44	0.45	
117	knowing the facts	事実を知ること	同左	0.45	0.78	0.47	0.43	0.21	
118	playing and watching sports	スポーツをしたり観たりすること	同左	0.19	-0.13	-0.41	-0.64	-0.46	
119	pursuing knowledge	知識を求めること	知識を追求すること	0.50	0.67	0.62	0.73	0.46	
120	having good taste	センスが良いこと	趣味嗜好が良いこと	0.32	0.38	0.19	0.02	0.16	
121	being able to follow orders	命令に従うことができること	命令に従うことが出来ること	-0.44	-0.69	-0.31	-0.29	0.04	
122	having a good physique	体格やスタイルが良いこと	同左	-0.28	-0.50	-0.32	-0.06	-0.40	
123	remembering my dreams	自分の見た夢の内容を忘れないこと	自分の夢を忘れないこと	-1.08	0.73	0.23	0.16	-1.10	
124	being careful to avoid mistakes	間違いを避けるよう慎重であること	誤りをおかさないように注意深くすること	-0.40	0.23	0.16	0.04	0.42	
125	sleeping	眠ること	同左	1.06	0.83	0.51	0.51	0.19	
126	being intelligent	頭が良いこと	知能の高いこと	0.03	0.19	0.43	0.78	0.33	
127	the death sentence for murders	殺人罪に対する死刑	同左	-0.27	-0.09	-0.34	-0.73	-0.20	
128	having authority over others	ひとに対して権威を持つこと	他人に対して権威を持つこと	-0.73	-1.29	-1.04	-1.06	-0.76	
129	being imaginative	想像力が豊かなこと	想像力が豊かなこと	0.67	0.66	0.22	0.51	-0.51	
131	trying out new things	新しい物事を試してみること	新しいものを試してみること	0.46	0.30	0.03	0.38	-0.59	
132	having comfort and contentment	快適で満ち足りていること	快適で満たされていること	0.45	0.42	0.30	0.66	-0.19	
133	feeling the pain of others	ひとの痛みを感じることに	人の痛みも感じることに	0.59	0.66	0.24	-0.10	0.18	
134	avoiding war	戦争を避けること	同左	0.91	1.24	0.77	0.42	0.65	
135	being healthy	健康であること	同左	1.07	1.25	0.93	0.76	0.76	
136	getting things to add up	物事の意味を的確にとらえること	物事のつじつまを合わせることに	0.43	-0.35	-0.01	-0.05	0.36	
137	finishing what one starts	やり始めたことを最後までやり終えること	始めたことを終わらせずにすること	0.56	0.51	0.42	0.38	0.37	

付表1. 項目の回答平均値一覧 (項目 138 - 161)

項目番号	英文	成城調査の日本語	ダンドラーデ調査の日本語	成城調査の平均値	調査の平均値の日本人	全体の平均値の3調査	ダンドラーデの平均値のアメリカ	ダンドラーデの平均値のヨーロッパ
		(207)	(210)	(207)	(61)	(519)	(210)	(248)
138	maintaining equal opportunity for all	機会の平等が万人に保障されていること	万人にとっての機会均等を維持すること	0.26	0.17	0.42	0.54	0.55
139	being sexually modest	性的に慎み深いこと	同左	-0.21	-0.07	-0.12	-0.29	-0.01
140	being part of a group	集団の一員であること	同左	-0.34	-0.63	-0.58	-0.33	-0.77
141	having good looks	ルックスが良いこと	容姿がよいこと	-0.49	-0.57	-0.42	-0.40	-0.29
142	learning scientific explanations for things	物事の科学的根拠を学ぶこと	物事の科学的根拠を説明を知ること	-0.56	0.17	0.05	0.10	0.10
143	being orderly and regular	規則正しく、整然としていること	きちんとしていて規則正しいこと	-0.35	0.08	0.07	-0.24	0.36
144	seeking universal truths	普遍的真理を追究すること	同左	-0.59	-0.07	-0.07	-0.15	0.02
145	catching on to things quickly	物事の飲み込みが早いこと	物事を素早く飲み込むこと	-0.01	0.02	0.17	0.38	0.11
146	remembering and honoring the past	歴史を忘れず、敬意を表すること	過去を忘れず尊重すること	-0.13	-0.13	-0.22	-0.04	-0.50
147	feeling that one belongs	居場所があると感ずること	所属していると感じること	0.62	-0.73	-0.22	-0.06	0.12
148	fulfilling family obligations	家族の義務を果たすこと	家族の義務を果たすこと	0.25	0.23	0.37	0.09	0.78
149	learning to accept what can't be changed	変えることのできないものを、(そのまま)受け入れようと努力すること	変えられないことを受け入れていくこと	0.00	-0.04	0.00	-0.02	0.07
150	being intuitive	直感的であること	同左	-0.09	0.03	0.15	0.38	0.05
151	defending my country	自分の国を守ること	同左	-0.10	-0.08	-0.11	-0.71	0.46
152	liberal political policies	リベラルな政策	進歩的な政治対策	-0.32	0.03	0.02	-0.36	0.40
153	being famous	有名であること	同左	-0.98	-1.33	-1.23	-1.51	-0.86
154	fighting discrimination	差別と戦うこと	偏見に対して戦うこと	-0.03	0.05	0.20	0.20	0.35
155	standing during the national anthem	国歌斉唱のときに起立すること	国歌斉唱の時、起立すること	-1.30	-1.05	-0.45	-0.54	0.23
156	being a success	成功者であること	同左	-0.57	-0.63	-0.02	0.30	0.25
157	not getting divorced	離婚しないこと	同左	-0.60	-0.54	0.05	0.33	0.37
158	taking the initiative	イニシアチブを取ることに	同左	-0.66	-0.78	-0.11	0.38	0.08
159	having a sense of humor	ユーモアのセンスがあること	同左	0.27	0.28	0.23	0.78	-0.36
160	taking part in ceremonies	儀式や式典に参加すること	儀式に参照すること	-0.66	-0.76	-0.60	-0.61	-0.42
161	showing respect to older people	年上の人に尊敬の念を表すこと	年上の人に尊敬の念を表すこと	0.11	0.11	0.40	0.42	0.68

付表 1. 項目の回答平均値一覧 (項目 162 - 182)

項目番号	英文	成城調査の日本語	ダントラデー調査の日本語	成城調査の平均値	調査の日本人	全体の平均値の調査	カナ人調査の平均値アメリカ	トナンドラデー調査の平均値エ
				(207)	(61)	(619)	(210)	(248)
162	being tolerant of different ideas and beliefs	異なる考えや信念に寛容であること	異なる考えや信念を寛容すること	0.24	0.37	0.29	0.66	-0.17
163	The United Nations	国際連合	同左	-0.01	0.04	-0.10	-0.37	0.03
164	paying others back for insults and injuries	ひとから受けた屈辱や損害に対して仕返しをすること	他人からの屈辱や損害に対して仕返すこと	-1.04	-1.26	-1.35	-1.25	-1.53
165	being open to new ideas	新しい考えにオープンであること	新しい考えを受け入れること	0.40	0.46	0.39	0.64	0.05
166	the future	将来	同左	0.86	0.90	0.71	0.54	0.70
167	getting things done	物事をさっさと済ませること	物事を片付けること、やり通すこと	-0.27	0.51	0.52	0.53	0.51
168	depreciating myself and complimenting others	へりくだって、ひとを賞賛すること	自分を軽んじ、他人を重んじること	-0.79	-1.01	-0.78	-0.94	-0.39
169	virginity	処女や童貞であること	処女性	-1.52	-1.27	-0.57	-0.74	0.31
170	staying where I was born and raised	生まれ育った土地で暮らすこと	生まれ育った土地に残って暮らすこと	-1.14	-1.53	-1.08	-1.46	-0.26
171	being religious	厚い信仰心を持つこと	信心深いこと	-1.37	-1.18	-0.84	-0.97	-0.38
172	being patient and resigned when misfortunes occur	不運な出来事が起こったとき、我慢強く受け止めること	不運が起こった時、辛抱強く受け止めること	-0.09	0.08	0.01	-0.31	0.26
173	social planning	社会計画	社会構造の計画化	-0.34	-0.43	-0.33	-0.50	-0.05
174	being exact	几帳面であること	正義であること	-0.47	0.22	0.01	-0.43	0.23
175	keeping secrets	秘密を守ること	同左	0.63	0.75	0.39	-0.04	0.46
176	having a positive outlook on life	人生を前向きにとらえること	前向きな人生観	0.73	0.93	0.68	0.65	0.46
177	having a good reputation	評判が良いこと	良い評価を得ること	-0.06	0.00	0.05	0.08	0.06
178	being open to change	変化にたいしてオープンであること	変化を受け入れること	0.17	0.34	0.29	0.49	0.04
179	having self discipline	自己を律すること	自制力のあること	0.24	0.29	0.41	0.56	0.37
180	minding my own business	他人に干渉しないこと	同左	-0.24	0.13	-0.39	-0.22	-1.09
181	feeling sure about myself	自分の気持ちに確信を持つこと	(自己) 確信を持つこと	0.17	0.39	0.47	0.60	0.44
182	being obedient	従順であること	同左	-0.54	-0.61	-0.27	-0.57	0.36

付表 1. 項目の回答平均値一覧 (項目 183 - 204)

項目番号	英文	成城調査の日本語	ダンドラニア調査の日本語	成城調査の平均値	調査の平均値の日本人	全体の平均値の3調査	カダニ調査の平均値アメリカ	ダンドラニアの平均値のヴェトナム人調査
		(207)	(61)	(519)	(210)	(248)		
183	developing new ideas	新しいアイデアを生み出すこと	新しい考えを開発する	0.32	0.43	0.41	0.46	0.33
184	saving money in case of an emergency	緊急時に備えてお金を貯めておくこと	緊急時に備えて貯蓄すること	0.33	0.15	0.30	0.20	0.55
185	keeping in touch with old friends	昔からの友だちと連絡をとり続けること	古い友達と連絡を保つこと	0.32	0.18	0.11	0.28	-0.14
186	thinking up new ways of doing things	いろんなことに対して新しいやり方を考えること	物事を処理する新しい方法を考え出すこと	0.29	0.34	0.27	0.18	0.29
187	respecting others' privacy	ひとのプライバシーを尊重すること	他人のプライバシーを尊重すること	0.58	0.67	0.52	0.37	0.52
188	not pursuing unattainable dreams	かなわぬ夢を追い求めないこと	実現する可能性もない夢を追わないこと	-0.98	-0.79	-0.69	-1.05	-0.23
189	having time to relax and take it easy	リラックスしてのんびりする時間を持つこと	くつろぎのんびりする時間を持つこと	0.69	0.64	0.47	0.58	0.19
190	having great wealth	大金持ちになること	莫大な富を持つこと	-0.49	-0.99	-0.51	-0.68	0.15
191	not giving up hope	希望を捨てないこと	希望を失わないこと	0.58	0.80	0.56	0.65	0.24
192	being busy	忙しいこと	多忙であること	-0.62	-0.83	-0.50	-0.19	-0.48
193	not overindulging	自分を甘やかさないこと	懲罰しないこと	0.30	-0.59	-0.36	-0.29	-0.21
194	having a world free of war	戦争のない世界	戦争のない世界を作ること	0.91	1.02	0.69	0.39	0.65
195	finding out how things work	物事がどのように作動しているのかを見極めること	物事がどのように作用するかを見つける事	0.14	0.08	0.00	0.18	-0.26
196	being with people who feel about things the way I do	自分と同じ感覚をもつ人びとと一緒にいること	自分と同じ感覚を持つ人と一緒にいること	-0.22	-0.05	0.06	0.03	0.21
197	protection of minority rights	少数民族や少数派の人びとの権利を守ること	少数民族の権利を守ること	0.12	0.21	0.22	0.26	0.17
198	treating human life as precious	人の命を尊ぶこと	人の命を重視する	0.97	1.12	0.86	0.59	0.88
199	forgiving others	ひとを許すこと	他人を許すこと	0.45	0.37	0.52	0.46	0.72
200	dieting	ダイエットすること	ダイエットをすること	-0.69	-1.02	-0.58	-1.15	0.44
201	listening to music	音楽を聴くこと	同左	0.55	0.28	0.14	0.40	-0.28
202	law and order	法と秩序	同左	0.20	0.35	0.29	-0.09	0.59
203	making good a profit	たくさんの利益を上げること	大きな利益を得ること	-0.26	-0.70	-0.48	-0.40	-0.35
204	being prosperous	裕福であること	繁栄すること	-0.14	-0.23	0.04	0.04	0.31

付表 1. 項目の回答平均値一覧 (項目 205 - 228)

項目番号	英文	成城調査の日本語	ダンドラーズ調査の日本語	成城調査の平均値	調査の日本人	全体の平均値の調査	ダンドラーズの平均値	ダンドラーズの平均値
				(207)	(61)	(519)	(210)	(248)
205	being realistic	現実的であること	同左	-0.02	0.16	0.22	0.26	0.26
206	thinking before speaking	よく考えてから話すこと	同左	0.20	0.23	0.31	0.20	0.50
207	art (paintings, drawings, sculpture)	美術 (絵画や彫刻)	芸術 (絵画、線画、彫刻)	-0.02	0.37	0.15	0.16	-0.10
208	cooperating with others	ひとと協力すること	人々と協力すること	0.48	0.46	0.24	0.32	-0.05
209	facing problems directly	問題を直視すること	同左	0.28	0.50	0.41	0.37	0.37
210	having privacy	プライバシーがあること	プライバシーを持つこと	0.66	0.75	0.45	0.59	0.01
211	having will power	強い意志を持つこと	意思力を持つこと	0.62	0.76	0.59	0.62	0.40
212	having erotic pleasure	性愛のたのしみがあること	性愛の喜び	-0.10	0.13	-0.20	0.06	-0.79
213	having a work routine	やることに決まった流れがあること	仕事においてルーチン (決まった内容) があること	-0.43	-0.30	-0.43	-0.07	-0.92
214	being loyal to my country	自分の国に忠誠であること	同左	-0.74	-0.51	-0.17	-0.48	0.46
215	thinking well of myself	自分自身を良く思うこと	自分自身を良く評価すること	-0.08	-0.28	0.06	0.47	-0.01
216	traveling to new places	行ったことのない所へ旅行すること	初めての土地に旅行すること	0.34	0.34	0.25	0.56	-0.14
217	having someone who will take care of me	自分の世話をしてくれる人がいること	同左	-0.07	-0.21	-0.35	-0.26	-0.57
218	not losing my temper	すぐにカッとししないこと	かんしゃくを起こさないこと	0.49	0.32	0.03	0.10	-0.32
219	overcoming temptation	誘惑に打ち勝つこと	誘惑を克服すること	0.29	0.09	0.09	0.00	0.18
220	drinking alcohol	酒を飲むこと	飲酒すること	-0.54	-0.78	-1.23	-1.21	-1.70
221	understanding myself	自分自身を理解すること	同左	0.60	0.69	0.54	0.65	0.27
222	showing gratitude	感謝の気持ちを表すこと	感謝の気持ちを表わすこと	0.82	0.87	0.66	0.55	0.57
223	doing what others expect me to	ひとから期待されていることをすること	他人が期待しているよう物事を行うこと	-0.20	-0.52	-0.40	-0.86	0.19
224	the US military	日本の自衛隊	日本の自衛隊	-0.61	-1.33	-0.75	-0.99	0.06
225	conquering nature	自然を征服すること	同左	-1.50	-1.44	-1.15	-1.61	-0.39
226	maintaining a sustainable environment	持続可能な環境を保つこと	資源が枯渇しないよう環境を維持すること	0.03	0.80	0.46	0.14	0.45
227	fulfilling my obligations	自分の義務を果たすこと	同左	0.30	0.54	0.52	0.33	0.68
228	being optimistic	楽観的であること	同左	0.08	0.31	0.34	0.46	0.27

付表 1. 項目の回答平均値一覧 (項目 229 - 249)

項目番号	英文	成城調査の日本語	ダンドラーデ調査の日本語	成城調査の平均値	調査の平均値の日本人	全体の平均値の調査	ダンドラーデの平均値のアメリカ	ダンドラーデの調査の平均値の日本人
		(61)	(207)	(61)	(207)	(519)	(210)	(248)
229	economic growth	経済成長	同左	0.01	-0.01	0.03	-0.38	0.47
230	being detached from what happens in the world	世の中の出来事から距離を置くこと	世界の出来事から距離を置くこと	-0.93	-1.25	-1.30	-1.40	-1.25
231	staying out of debt	借金をしないこと	借金しないこと	0.78	0.83	0.37	0.52	0.34
232	persevering to overcome difficulties	困難を克服するまで耐え続けること	困難克服のために辛抱すること	-0.06	0.19	0.43	0.45	0.57
233	increasing welfare for the disadvantaged	恵まれない人びとのために社会福祉を充実させること	恵まれない人々の福祉を増加すること	0.04	0.19	-0.03	-0.55	0.28
234	getting along with others through mutual concessions	譲歩しあって、ひととどうやっやくやっやくしていくこと	相互の譲歩により仲良くすること	0.07	0.22	0.23	-0.04	0.51
235	not deceiving others	ひとを欺かないこと	他人を欺かないこと	0.42	0.66	0.54	0.33	0.65
236	having business skills	ビジネスに必要なスキルがあること	ビジネスに熟練すること	0.18	-0.08	-0.02	-0.22	0.24
237	being flexible	柔軟であること	同左	0.64	0.50	0.39	0.45	0.23
238	being the center of attention	注目の的になること	同左	-0.62	-1.23	-1.05	-1.02	-0.91
239	taking care of others	ひとの世話をすること	他人の世話をすること	-0.13	-0.08	0.09	0.25	0.11
240	expressing feelings physically	ひとの世話を表すこと	ひとの世話を表すこと	-0.23	-0.34	-0.31	-0.22	-0.38
241	laughing at difficulties	困難をものともしないこと	同左	-0.12	0.05	-0.41	-0.06	-1.22
242	conservative political policies	保守的な政策	保守的な政治対策	-0.82	-1.16	-1.26	-1.35	-1.27
243	sex before marriage	婚前交渉	同左	-0.47	-0.52	-0.81	-0.67	-1.23
244	being able to run things the way I want taking care of my parents when they get older	自分の思う通りに物事を進めること 親が年老いたときに面倒をみること	自分の思う通りに物事を動かすこと 自分の親が年老いた時に面倒をみること	-0.33	-0.78	-0.36	-0.20	-0.09
245	having mystical experiences	神秘的体験をすること	同左	0.36	0.32	0.54	0.41	0.89
246	making friends	友達を作る	同左	-0.53	-1.12	-0.78	-0.86	-0.36
247	admitting my mistakes	自分の過ちを認めること	同左	0.97	0.89	0.53	0.49	0.12
248	democracy	民主主義	同左	0.69	0.71	0.44	0.22	0.40
249			同左	0.17	0.60	0.40	0.25	0.37

付表 1. 項目の回答平均値一覧 (項目 250 - 272)

項目番号	英文	成城調査の日本語	ダンドラード調査の日本語	成城調査の平均値	調査の日本人の平均値	全体の平均値の調査	ダンドラード調査の平均値	トナドランド調査の平均値
				(207)	(61)	(519)	(210)	(248)
250	having trust in others	ひとを信頼すること	他人を信頼すること	0.61	0.57	0.34	0.54	-0.09
251	having time for myself	自分の時間を持つこと	同左	0.86	0.77	0.47	0.63	0.02
252	being true to myself	自分に正直であること	自分に誠実であること	0.52	0.76	0.56	0.84	0.06
253	finding meaning in life	生きる意味を見つけること	生きる意味を見つけること	0.50	0.48	0.44	0.35	0.48
254	eating	食べる	同左	0.89	0.72	0.23	0.13	-0.17
255	getting tasks done right away	やるべきことをすぐに片付けること	やるべきことをすぐに片付けること	0.13	0.03	-0.03	-0.08	-0.03
256	understanding people who think differently	違う考え方をする人びとを理解すること	違う考え方をする人びとを理解すること	0.52	0.57	0.34	0.39	0.06
257	the elimination of racism	人種差別の撤廃	人種差別を無くすこと	0.62	0.85	0.68	0.59	0.61
258	doing things in logical order	論理的な順序で物事を進めること	論理的な順序で物事を行うこと	-0.12	0.07	0.11	-0.04	0.30
259	doing what God wants me to	神が望むことを行うこと	神が望むことを行うこと	-1.49	-1.43	-0.99	-0.95	-0.60
260	saying what I think	自分の考えを述べる	同左	0.40	0.34	0.20	0.32	-0.07
261	keeping my emotions under control	自分の感情をコントロールすること	自分の感情を押さえること	0.51	-0.23	-0.13	-0.04	-0.13
262	finding a mate with good moral and intellectual qualities	道徳的で知的な (結婚) 相手を見つけること	同左	-0.01	0.12	0.55	0.84	0.68
263	accepting change	変化を受け入れること	同左	0.32	0.28	0.23	0.36	0.05
264	being a leader	みんなのリーダーであること	リーダーであること	-0.88	-0.94	-0.49	-0.09	-0.46
265	exercising and keeping fit	運動をして、健康であること	運動をし、健康であること	0.53	0.77	0.39	0.16	0.24
266	birth control	避妊	産児制限 (避妊)	0.43	0.23	-0.07	0.14	-0.57
267	having fun	楽しいことをすること	楽しむこと	0.94	0.85	0.70	0.75	0.49
268	going against the crowd	世のなりゆきに逆らうこと	大勢に逆らうこと	-0.98	-1.13	-0.98	-0.43	-1.39
269	not giving up	あきらめないこと	同左	0.61	0.60	0.47	0.63	0.18
270	thinking about the future	将来について考えること	未来について考えること	0.74	0.64	0.52	0.45	0.47
271	wanting to amount to something special	ひとかたの人物になりたいと願うこと	特別のものになりたい気持ち	-0.29	-0.45	-0.11	-0.47	-0.36
272	being well dressed	身なりがきちんとして	同左	0.30	0.10	-0.41	-0.44	-0.89

付表 1. 項目の回答平均値一覧 (項目 273 - 297)

項目番号	英文	成城調査の日本語	ダンドラーア調査の日本語	成城調査の平均値	ダンドラーアの日本人調査の平均値	ダンドラーアの日本人調査の平均値	ダンドラーアの日本人調査の平均値	ダンドラーアの日本人調査の平均値	ダンドラーアの日本人調査の平均値
		(207)	(210)	(61)	(519)	(210)	(248)		
273	having a good vocabulary	語彙が豊富で表現力が豊かなこと	語彙が豊富なこと	0.49	0.42	0.19	0.08		
274	understanding science	科学を理解すること	同左	-0.47	0.09	0.05	0.22		
275	having social status	社会的地位が高いこと	同左	-0.57	-0.85	-0.64	-0.46		
276	knowing my own strengths and weaknesses	自分の長所と短所を知ること	同左	0.60	0.56	0.52	0.43		
277	being reliable	頼りになること	信頼出来る人であること	0.35	0.87	0.71	0.68		
278	having self control	自制心があること	自己抑制力があること	0.43	0.49	0.50	0.53		
279	being a good loser	負け惜しみを言わないこと	負けて悪いがないこと	-0.33	0.36	0.15	0.01		
280	respecting authority	権威を尊重すること	同左	-0.45	-0.79	-0.27	-0.24		
281	thinking ahead	前もって考えておくこと	同左	0.16	-0.05	0.13	0.27		
282	being different from others	ひとと異なっていること	先取りして考えること	-0.16	-0.35	-0.50	-0.11		-1.04
283	treating people equally	ひとと平等に接すること	人々と平等に取り扱うこと	0.29	0.71	0.60	0.58		0.50
284	having strong traditions	強固な伝統があること	確立した伝統を持つこと	-0.59	-0.37	-0.03	-0.27		0.55
285	being honest and genuine	正直で誠実であること	正直かつ誠実であること	0.48	0.82	0.77	0.76		0.73
286	having others think well of me	ひとから良く思われること	他人に高く評価されること	-0.06	-0.40	-0.07	0.23		-0.05
287	being interested in many things	多くのことに興味を持つこと	同左	0.59	0.52	0.31	0.49		-0.07
288	taking in stray animals	飼いまいのいない動物を引き取ること	同左	-0.74	-0.74	-0.86	-0.77		-0.87
289	being protected	守られていること	守られること	-0.10	-0.24	-0.23	0.03		-0.48
290	living in a different country	外国に住むこと	同左	-0.85	-0.51	-0.68	-0.56		-0.96
291	being close to nature	自然との距離が近いこと	自然に親近感を抱くこと	-0.04	0.61	0.10	-0.03		-0.30
292	science	科学	同左	-0.50	0.10	0.05	-0.07		0.13
293	having my own point of view	自分の視点で物事をとらえること	自分の見解を持つこと	0.24	0.73	0.54	0.65		0.24
294	being reserved and acting with discretion	控えめで、思慮深く行動すること	控え目で思慮深く行動すること	-0.28	-0.15	0.03	-0.30		0.53
295	enjoying the beauty of nature	自然の美しさを堪能すること	自然の美を楽しむこと	0.23	0.53	0.36	0.45		0.10
296	improving myself	自分を向上させること	自己改善 (自分を向上させること)	0.68	0.71	0.62	0.65		0.49
297	having a personally fulfilling life	一人の人間として満たされた生活を送ること	個人的に満たされた人生を送ること	0.47	0.62	0.55	0.93		0.10

付表 1. 項目の回答平均値一覧 (項目 298 - 319)

項目番号	英文	成誠調査の日本語	ダンドラード調査の日本語	成誠調査の平均値	調ダンドラードの日本人平均値	全体的平均値の調査	ダンドラードの平均値	カンニングの平均値	ダンドラードの平均値
				(207)	(61)	(519)	(210)	(248)	
298	market competition	市場での競争	市場競争	-0.43	-0.27	-0.50	-0.89	-0.33	
299	respecting superiors and showing kindness to inferiors	目上の人を敬い、目下の人に親切にすること	同左	0.29	0.36	0.31	-0.17	0.74	
300	reading comics	漫画を読むこと	同左	-0.17	-1.07	-1.29	-1.49	-1.29	
301	going to movies	映画を見に行くこと	同左	0.16	-0.27	-0.53	-0.31	-1.00	
302	observing religious holidays	宗教的な祭日を祝うこと	宗教的祭日を守ること	-1.14	-1.56	-0.88	-0.71	-0.38	
303	consulting psychics	霊能者に相談すること	心を生かすこと	-1.76	-2.13	-1.91	-1.99	-1.61	
304	living in the present	今を生かすこと	今を生かす (現在に生きる) こと	0.71	0.55	0.26	0.19	0.05	
305	having strong religious faith	宗教の教えを信じて疑わないこと	強い (宗教的な) 信念を持つこと	-1.59	-1.56	-0.84	-0.88	-0.07	
306	having a well-organized society	社会の仕組みがよく整備されていること	徹底的に組織化された社会	0.03	-1.71	-0.52	-0.17	0.34	
307	completing work on time	やるべきことを時間通りに済ませること	時間通りに仕事を完成させること	0.10	-0.22	0.24	0.39	0.56	
308	falling in love	恋に落ちること	同左	0.48	0.37	0.26	0.76	-0.34	
309	getting along with my spouse's family and friends	配偶者の家族や友人と仲良くすること	配偶者の家族や友人とうまく行くこと	0.54	0.57	0.31	0.37	(欠)	
310	not getting involved with someone of bad reputation	評判の悪い人とかかわりを持たないこと	評判の悪い人に関係しないこと	-0.86	-0.64	-0.60	-0.67	-0.48	
311	being able to express myself well	自分をうまく表現できること	自己表現がうまく出来ること	0.51	0.48	0.28	0.55	-0.19	
312	being creative	創造性があること	同左	0.59	0.76	0.51	0.59	0.19	
313	being able to influence what happens	状況に影響を与える力があること	出来事に影響力を持つこと	0.02	-0.30	-0.14	0.28	-0.41	
314	having financial security	経済的に安定していること	財政的に安定していること	0.30	0.28	0.30	0.43	0.19	
315	having a leisurely lifestyle	気楽なライフスタイルを持つこと	のんびりしたライフスタイル	0.26	0.33	0.06	0.04	-0.19	
316	going along with group decisions	集団の決定に従うこと	同左	-0.51	-0.65	-0.56	-0.85	-0.18	
317	being ambitious	野心的であること	同左	-0.29	-0.44	-0.26	0.31	-0.66	
318	gay rights	同性愛者の権利	同左	-0.09	-0.63	-0.82	-0.23	-1.60	
319	reading poetry	詩や短歌、俳句を読むこと	詩を読むこと	-0.78	-0.71	-0.82	-0.58	-1.16	

付表 1. 項目の回答平均値一覧 (項目 320 - 329)

項目番号	英文	成城調査の日本語	ダンドラーア調査の日本語	成城調査の平均値	調査の平均値の日本人	全体の平均値の調査	カダンドラーアの平均値アメリカ	ダンドラーアの平均値のタイエトナム人調査
				(207)	(61)	(519)	(210)	(248)
320	keeping one's cool	冷静を保つこと	同左	0.21	0.23	0.18	0.12	0.17
321	living a life of adventure	冒険に満ちた人生を送ること	冒険的な生活を送ること	-0.23	-0.56	-0.54	0.10	-1.16
322	keeping things tidy	整理整頓すること	整理整頓しておくこと	0.16	0.05	0.03	-0.15	0.18
323	being spontaneous and open	オープンで、臨機応変に対応できること	作為がなく、隠しだてしないこと	0.48	0.36	0.04	0.35	-0.59
324	having love	愛があること	愛情深いこと	0.90	0.90	0.66	0.89	0.18
325	being a good person	善人であること	同左	-0.07	0.46	0.70	0.96	0.70
326	being able to adjust	順応性があること	同左	0.31	0.43	0.45	0.65	0.26
327	not committing adultery	浮気をしないこと	不貞(浮気)をしないこと	0.29	0.38	0.47	0.59	0.43
328	promoting the values of my culture	自分の文化の価値を広めること	自分の文化の価値を促進すること	0.04	0.12	0.09	-0.32	0.48
329	loafing	ぶらぶらして過ごすこと	何もせずぶらぶらと過ごすこと	-0.48	-0.98	-0.68	-1.07	(欠)

Toward a Systematic Inquiry of Work Ethic: A Comparative Questionnaire Survey of Values

MINAMI Yasusuke (Seijo University)
yminami@seijo.ac.jp

ABSTRACT

Japanese university students were asked to evaluate 328 items using a 5-point scale. D'Andrade and Leininger have selected 328 items which cover various domains of possible values. Included items were, for example, "choosing my own goals," "being close to my family," "treating people equally," "staying out of debt," "working hard," and "being detached from what happens in the world." The questionnaire was administered to three samples of American university students, Vietnamese living in the U.S., and Japanese. Both of the Vietnamese and the Japanese samples contained not only university students but also older people.

In order to supplement the Japanese sample of the D'Andrade study, the 328 items were translated into Japanese from English. Two hundred Seijo students completed the questionnaire. Comparing the Seijo results with D'Andrade's Japanese sample, the issue of item-translation was discussed. Small changes in wording seem to have considerable effects on ratings. Among the ten value-items which rated most highly by Seijo students, three were concerned with "friends." Although the basic pattern of value ratings are similar between Japanese and American samples, the items in the top ten were found to demonstrate a unique Japanese value pattern.

A short version of the questionnaire was administered to 25 returnees. Their "work ethic" value ratings were compared with the Seijo sample. No clear difference was found between the two groups. It was tentatively concluded that returnees have a different "work ethic" values due to their American experiences.

KEY WORDS: comparative value study, item translation, work ethic, returnee